

授業科目名	スポーツ学研究法				
担当教員名	間野				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学術論文を作成するうえで必要となる各種技法と考え方について理解し、修士論文の作成に必要となる基礎的な知識・技能を身につけ、研究計画書ならびに本学の倫理審査申請書を作成する。
 具体的には、研究テーマの設定方法、先行研究等の論文検索方法、想定する論文投稿先の学術誌の検討方法、投稿規定の読み方、論文の章構成、論文作成の手順について理解するとともに、担当教員と受講者とのディスカッションを通じて、スポーツ学研究に対する理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	社会やスポーツにおける多様な課題やニーズに対する理解力	関心・意欲を持って発表を傾聴したり、発表・質疑応答できる。
2. DP2. 知識・技能	スポーツ学に係る学術的理解を基盤に専門的な知識・技能	発表者の研究内容や方法を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
発表・質疑応答	： 各回の授業における発表・質疑応答の妥当性を5段階で評価する。
50 %	
研究計画書	： 研究計画書の妥当性を5段階で評価する。
50 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「研究計画書」と「倫理審査申請書」の作成に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 学術団体と学術論文について 日本学術会議協力団体が定期的に発行する学術誌について知り、学会誌の投稿規定、審査方法などについて具体的に理解する。修士論文の投稿先の調べ方についても学習する。	日本学術会議のWEBサイトを閲覧し、学術団体・研究者の定義等を理解する。	4時間

第2回	研究テーマの設定 社会的な問題、学術的な課題、個人的な関心が重なる部分に自身の研究テーマが設定できるように様々なワークを行う。	新聞社のWEBサイトを閲覧し、自身の関心のある事項の最新のPEST分析を行う。	4時間
第3回	先行研究等の論文検索 研究テーマに関連した先行研究を各種データベースを用いて検索し、論文リストを作成する。	論文検索のための複数のデータベースにアクセスして、関心のある論文検索が出来るようにする。	4時間
第4回	論文投稿先の学術誌の検討、投稿規定の読み方 投稿を想定している学術誌の投稿規定を読み、実際の論文の作成方法を学ぶ。	自分の関心のある分野の先行研究の掲載誌、その投稿規定について調べる。	4時間
第5回	論文の章構成・手順 緒言、目的、方法、結果、考察、結論、研究の限界といった章構成を理解する。また、実際の論文作成に際しての結果の重要性を学習する。	第4回で調べた投稿規定を熟読し、論文の章構成を作成する。	4時間
第6回	研究倫理審査申請書の作成 ヘルシンキ宣言、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンスについて理解する。実際の本学研究倫理審査申請書の作成方法を学習する。	本学の研究倫理審査申請用紙をダウンロードして熟読する。	4時間
第7回	研究計画書の作成 科研費基盤Cの計画書フォーマットを理解する。その上で各人が研究計画書を作成する。	ファイルで提供した科研費基盤Cの研究計画書をダウンロードして熟読する。	4時間
第8回	研究計画の発表（1） 作成した研究計画書を発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、発表の準備を行う。	4時間
第9回	研究計画の発表（2） 作成した研究計画書を発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、発表の準備を行う。	4時間
第10回	研究計画の発表（3） 作成した研究計画書を発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、発表の準備を行う。	4時間
第11回	研究計画の発表（4） 作成した研究計画書を発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、発表の準備を行う。	4時間
第12回	研究計画の発表（5） 作成した研究計画書を発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、発表の準備を行う。	4時間
第13回	研究計画の発表（6） 作成した研究計画書を発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、発表の準備を行う。	4時間
第14回	学術論文の作成方法についての総合討議 研究計画の見直しと今後の研究着手に向けて各人の見通しを発表し、それに対して建設的な質疑応答を行う。	修士論文の研究計画書等を改善し、今後の見通しについての発表の準備を行う。	4時間

授業科目名	特別研究 I				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、社会がスポーツに求めている多様な課題やニーズに対する自分の考えを的確に伝えることができ、それらの解決に向けて適切な判断ができる力を培うことを目指す。具体的には、修士論文（特定の課題に関する研究）の研究計画書や研究倫理申請書を完成させる。そのために、興味・関心のある国内外の文献を熟読し、指導教員や大学院担当教員に対してプレゼンテーションとディスカッションを繰り返しながら、修士論文（特定の課題に関する研究）の研究計画書を作成する。また、次に、修士論文（特定の課題に関する研究）の研究計画書に基づいて研究倫理申請書を作成する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	研究計画書と研究倫理申請書の作成能力	研究計画書と研究倫理申請書を作成できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	研究計画書のプレゼンテーション能力	研究計画書のプレゼンテーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ その他(以下に概要を記述)

遠隔授業の有無については、指導教員と相談してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

資料	評価の基準
資料	： 第14回の授業において、研究計画書と研究倫理申請書の完成度を5段階で評価する。
プレゼンテーション	： 第12回の授業において、研究計画書のプレゼンテーションの分かりやすさを5段階で評価する。
	50 %
	50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

授業計画

第1回 オリエンテーション、修士論文（特定の課題に関する研究）の理解

学修課題

特別研究法 I・II・III・IVのシラバスと大学院ガイドブックを熟読し、大学院を修了するまでの流れをイメージする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	特別研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの概要や関連性を理解する。また、修士論文と特定の課題に関する研究との違いを理解し、その論文に求められる水準を理解する。さらに、それらを完成させて大学院を修了するまでの流れを把握する。		
第2回	修士論文（特定の課題に関する研究）の構成 指導教員の論文を熟読し、修士論文（特定の課題に関する研究）を含む研究論文の一般的な構成（緒言、方法、結果、考察、結論、文献等）を理解する。また、その論文に関する指導教員の学会発表を聴講し、修士論文（特定の課題に関する研究）の中間発表等のイメージを構築する。	指導教員の論文を熟読して疑問点をまとめる。本学における過去の修士論文（特定の課題に関する研究）の抄録を調べる。	4時間
第3回	研究計画書の重要性 指導教員の論文や科研費等の研究申請書を確認し、研究計画書の重要性を理解する。また、研究計画書における目的や方法の設定の重要性を学修する。	指導教員の論文や興味・関心のある論文を熟読する。	4時間
第4回	日本国内の先行研究の検索 日本国内の研究論文の調べ方について学修する。また、興味・関心のある文献を収集し、熟読して修士論文（特定の課題に関する研究）の文献としてリスト化する。	本学の図書館において、日本国内の文献検索の方法を調べる。	4時間
第5回	海外の先行研究の検索 海外の研究論文の調べ方を学修する。また、興味・関心のある海外の文献を収集し、熟読して修士論文（特定の課題に関する研究）の文献としてリスト化する。	本学の図書館において、海外の文献検索の方法を調べる。また、本学で閲覧できる外国学術雑誌を把握する。	4時間
第6回	研究計画書における緒言（目的）の検討① 第4回・第5回の授業で収集した国内外の文献と要約したものを用いて研究計画書における緒言（目的）を完成させる。また、指導教員とディスカッションして緒言（目的）の完成度を高める。	第4回・第5回の授業で収集した国内外の文献と要約を見直し、不足している場合は図書館等で文献を検索して追加する。	4時間
第7回	研究計画書における緒言（目的）の検討② 指導教員と第6回の授業で作成した研究計画書における緒言（目的）を批判的に検討して改善させる。	指導教員以外の大学院担当教員に研究計画書における緒言（目的）について、プレゼンテーションして意見を求める。	4時間
第8回	研究計画書における方法の検討① 研究計画書における方法を完成させる。また、指導教員とディスカッションして方法の完成度を高める。	第7回の授業で作成した研究計画書における緒言（目的）から、合理的かつ効率的な方法を検討する。	4時間
第9回	研究計画書における方法の検討② 指導教員と第8回の授業で作成した研究計画書における方法を批判的に検討して改善する。	指導教員以外の大学院担当教員に研究計画書における方法についてプレゼンテーションして意見を求める。	4時間
第10回	研究計画書における予測される結果、結論の検討 研究計画書における緒言（目的）と方法から、予測される結果、結論について、指導教員とディスカッションする。	第7回～第10回までの授業で授業を振り返り、プレゼンテーションするスライドを見直す。	4時間
第11回	研究計画書の検討① 第10回の授業で作成した研究計画書のプレゼンテーションとディスカッションを行い、研究計画書の妥当性を検討する。	指導教員以外の大学院担当教員に研究計画書のプレゼンテーションをして意見を求める。	4時間
第12回	研究計画書の検討② 第11回の授業で指摘・助言を受けて改善した研究計画書について、プレゼンテーションとディスカッションを行い、研究計画書の妥当性を検討する。	指導教員に第11回の授業で大学院担当教員から指摘・助言を受けた点を検討し、第12回の授業でプレゼンテーションするスライドを作成する。	4時間
第13回	研究計画書の完成 第1～12回までの授業を振り返り、研究計画書の妥当性や適切さを最終確認する。特に、研究目的と方法の整合性について検討する。	指導教員以外の大学院担当教員に第12回の授業のプレゼンテーションを行い、意見を求める。	4時間
第14回	研究倫理の必要性 ヘルシンキ宣言、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス、利益相反について学修し、研究において研究倫理審査が不可欠であることを理解する。また、研究において捏造、改ざん、盗用を絶対にしてはならないことを理解する。最後に、本学における指導教員の研究倫理審査申請書を手本としながら、自身の研究計画書に基づいて研究倫理審査申請書を作成する。	ヘルシンキ宣言、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス、本学の研究倫理審査申請用紙を熟読する。研究における利益相反、捏造、改ざん、盗用について調べる。	4時間

授業科目名	特別研究Ⅱ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、社会がスポーツに求めている多様な課題やニーズに対する自分の考えを的確に伝えることができ、それらの解決に向けて適切な判断ができる力を培うことを目指す。具体的には、作成した修士論文（特定の課題に関する研究）の研究計画書に基づいて研究（調査や実験）を実施し、修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会を成功させる。そのために、予備実験（予備調査）や本実験（本調査）を実施し、修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会のプレゼンテーションとディスカッションを繰り返すことによって完成度を高める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	第一次中間報告会のプレゼンテーション資料の作成能力	第一次中間報告会のプレゼンテーション資料を作成できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	第一次中間報告会のプレゼンテーション能力	第一次中間報告会においてプレゼンテーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

遠隔授業の有無については、指導教員と相談してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
資料	： 第14回の授業において、第一次中間報告会のプレゼンテーション資料の完成度を5段階で評価する。
50 %	
プレゼンテーション	： 第14回の授業において、第一次中間報告会のプレゼンテーションの分かりやすさを5段階で評価する。
50 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

授業計画

第1回 オリエンテーション、研究計画書の確認

学修課題

特別研究法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのシラバスと大学院ガイドブックを熟読し、大学院を修了するまでの流れをイメージする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	特別研究法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの概要や関連性を理解し、修了するまでの流れを把握する。また、特別研究法Ⅰで作成した研究計画書を確認し、測定方法や調査方法を確認する。		
第2回	予備実験（予備調査）の準備 測定項目や調査項目を精査し、必要な場合は追加項目を検討する。予備実験（予備調査）に必要な物品を準備する。実験機器の操作方法や調査用紙の記入方法を確認し、シミュレーションを行う。	特別研究法Ⅰで作成した研究計画書を入念に確認する。本実験（本調査）の関係者に連絡して予定を確認する。	4時間
第3回	予備実験（予備調査）の分析① 予備実験（予備調査）のデータを分析して表やグラフを作成する。また、結果を検討して本実験（本調査）の計画を改善する。	予備実験（予備調査）のデータを整理する。	4時間
第4回	予備実験（予備調査）の結果の検討② 第3回の授業で作成した表やグラフから結果を考察する。また、本実験（本調査）の計画を改善する。	第3回の授業で作成した表やグラフを確認する。	4時間
第5回	本実験（本調査）の準備① 本実験（本調査）の測定項目や調査項目、実験機器の操作方法、調査用紙の記入方法を確認し、必要な物品を準備する。	本実験（本調査）の関係者に連絡して予定を確認する。	4時間
第6回	本実験（本調査）の結果の検討① 本実験（本調査）のデータを分析して表やグラフを作成する。	本実験（本調査）のデータを整理する。	4時間
第7回	本実験（本調査）の結果の検討② 第6回の授業で作成した表やグラフから結果を考察する。	第6回の授業で作成した表やグラフを確認する。	4時間
第8回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の抄録作成 修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の抄録を作成する。	過去の大学院生の抄録を見て構成を理解し、研究計画書や研究結果を確認する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第9回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の発表スライド作成 修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の発表スライドを作成する。	作成した抄録に沿って修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の発表スライドの構成を検討する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第10回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の予行練習 修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の予行練習を行う。また、発表練習を繰り返して行いながら、抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に改善を加える。	第9回の授業で発表スライドを見直して発表練習を行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第11回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会のスライドの検討 抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に誤字脱字がないか、分かりやすいかなどを副指導教員にチェックしてもらって改善する。また、発表における話し方などをチェックしてもらい、適切な発表ができるようになる。	第10回の授業で受けた助言を抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に反映させて練習を行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第12回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の発表練習 副指導教員と修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の準備を行う。具体的には、何度も発表練習しながら、スライドや発表する際の話す内容（原稿）を修正する。また、質疑応答の練習を行う。	第11回の授業で受けた助言を抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に反映させて改善する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第13回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の最終準備 修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会の最終準備を行う。具体的には、抄録やスライドに誤字脱字がないかをチェックしたり、発表する際の話す内容（原稿）を確認する。最後に何度も発表練習を行いながら質疑応答の対策も行う。	抄録やスライド、発表する際の話す原稿を見直す。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第14回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会 修士論文（特定の課題に関する研究）の第一次中間報告会を行う。その際、多様な意見に対して理解を示し、質疑に簡潔かつ的確に回答することを学修する。	第一次中間報告会での発表練習を入念に行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間

授業科目名	特別研究Ⅲ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、社会がスポーツに求めている多様な課題やニーズに対する自分の考えを的確に伝えることができ、それらの解決に向けて適切な判断ができる力を培うことを目指す。具体的には、修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会を成功させる。そのために、本実験（本調査）の結果を詳細に考察し、修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会のプレゼンテーションとディスカッションを繰り返すことによって完成度を高める。それと同時に修士論文（特定の課題に関する研究）の作成に進める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	修士論文の作成能力	80～89%まで修士論文（特定の課題に関する研究）を完成できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	第二次中間報告会のプレゼンテーション能力	第二次中間報告会においてプレゼンテーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ その他(以下に概要を記述)

遠隔授業の有無については、指導教員と相談してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
資料	： 第14回の授業において、修士論文（特定の課題に関する研究）の完成度を5段階で評価する。
50 %	
プレゼンテーション	： 第14回の授業において、第二次中間報告会のプレゼンテーションの分かりやすさを5段階で評価する。
50 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

授業計画

第1回 オリエンテーション、修士論文の進捗状況の確認

学修課題

特別研究法Ⅲ・Ⅳのシラバスと大学院ガイドブックを熟読し、大学院を修了するまでの流れをイメージする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	特別研究法Ⅲ・Ⅳの概要や関連性を理解し、修了するまでの流れを把握する。第一次中間報告会の振り返りを行い、第二次中間報告会に向けて修士論文の進捗状況を確認する。		
第2回	修士論文（特定の課題に関する研究）の緒言 修士論文（特定の課題に関する研究）の緒言を執筆する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	先行研究や本実験（本調査）の表やグラフを確認し、修士論文（特定の課題に関する研究）の緒言の流れを検討する。	4時間
第3回	修士論文（特定の課題に関する研究）の方法 修士論文（特定の課題に関する研究）の方法を執筆する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	本実験（本調査）の内容を確認し、修士論文（特定の課題に関する研究）の方法の記載内容を検討する。	4時間
第4回	修士論文（特定の課題に関する研究）の結果 修士論文（特定の課題に関する研究）の結果を執筆する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	本実験（本調査）の表やグラフを確認する。	4時間
第5回	修士論文（特定の課題に関する研究）の考察 修士論文（特定の課題に関する研究）の考察を執筆する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	本実験（本調査）の表やグラフを確認し、考察を検討する。また、考察に用いる文献を整理する。	4時間
第6回	修士論文（特定の課題に関する研究）の結論 修士論文（特定の課題に関する研究）の結論を執筆する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	緒言、方法、結果、考察を熟読して結論を検討する。	4時間
第7回	修士論文（特定の課題に関する研究）の文献 修士論文（特定の課題に関する研究）の文献を記載する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	先行研究を整理する。また、追加に必要な文献を調べる。	4時間
第8回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の抄録作成 修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の抄録を作成する。	過去の大学院生の抄録を見て構成を理解し、研究計画書や研究結果を確認する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第9回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の発表スライド作成 修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の発表スライドを作成する。	作成した抄録に沿って修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の発表スライドの構成を検討する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第10回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の予行練習 修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の予行練習を行う。また、発表練習を繰り返して行いながら、抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に改善を加える。	第9回の授業で発表スライドを見直して発表練習を行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第11回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会のスライドの検討 抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に誤字脱字がないか、分かりやすいかなどを副指導教員にチェックしてもらって改善する。また、発表における話し方などをチェックしてもらい、適切な発表ができるようになる。	第10回の授業で受けた助言を抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に反映させて練習を行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第12回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の発表練習 副指導教員と修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の準備を行う。具体的には、何度も発表練習しながら、スライドや発表する際の話す内容（原稿）を修正する。また、質疑応答の練習を行う。	第11回の授業で受けた助言を抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に反映させて改善する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第13回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の最終準備 修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会の最終準備を行う。具体的には、抄録やスライドに誤字脱字がないかをチェックしたり、発表する際の話す内容（原稿）を確認する。最後に何度も発表練習を行いながら質疑応答の対策も行う。	抄録やスライド、発表する際の話す原稿を見直す。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第14回	修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会 修士論文（特定の課題に関する研究）の第二次中間報告会を行う。その際、多様な意見に対して理解を示し、質疑に簡潔かつ的確に回答することを学修する。	第二次中間報告会での発表練習を入念に行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間

授業科目名	特別研究Ⅳ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、社会がスポーツに求めている多様な課題やニーズに対する自分の考えを的確に伝えることができ、それらの解決に向けて適切な判断ができる力を培うことを目指す。具体的には、修士論文を提出し、最終審査に合格することによって実現させる。また、特別研究法Ⅲで進めている修士論文の内容について、ディスカッションを繰り返すことによって完成度を高める。さらに、最終審査のプレゼンテーションを繰り返すことを通して完成度を高める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	修士論文・抄録の作成能力	80～89%まで修士論文（特定の課題に関する研究）・抄録を完成できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	最終審査のプレゼンテーション能力	最終審査においてプレゼンテーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

遠隔授業の有無については、指導教員と相談してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
資料	： 第14回の授業において、修士論文（特定の課題に関する研究）と抄録の完成度を5段階で評価する。
プレゼンテーション	： 第14回の授業において、最終審査のプレゼンテーションの分かりやすさを5段階で評価する。
	50 %
	50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

授業計画

第1回 オリエンテーション、修士論文の進捗状況の確認

学修課題

特別研究法Ⅳのシラバスと大学院ガイドブックを熟読し、修士論文（特定の課題に関する研究）の提出や大学院を修了するまでの流れをイメージする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	特別研究法Ⅳの概要を理解し、修了するまでの流れを把握する。第二次中間報告会の振り返りを行い、最終審査に向けて修士論文の進捗状況を確認する。		
第2回	修士論文（特定の課題に関する研究）の緒言 修士論文（特定の課題に関する研究）の緒言を推敲する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	特別研究法Ⅲで作成した修士論文（特定の課題に関する研究）の緒言を熟読する。	4時間
第3回	修士論文（特定の課題に関する研究）の方法 修士論文（特定の課題に関する研究）の方法を推敲する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	特別研究法Ⅲで作成した修士論文（特定の課題に関する研究）の方法を熟読する。	4時間
第4回	修士論文（特定の課題に関する研究）の結果 修士論文（特定の課題に関する研究）の結果を推敲する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	特別研究法Ⅲで作成した修士論文（特定の課題に関する研究）の結果を熟読する。	4時間
第5回	修士論文（特定の課題に関する研究）の考察 修士論文（特定の課題に関する研究）の考察を推敲する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。	特別研究法Ⅲで作成した修士論文（特定の課題に関する研究）の考察を熟読する。	4時間
第6回	修士論文（特定の課題に関する研究）の結論・文献 修士論文（特定の課題に関する研究）の結論を推敲する。指導教員の指導を受けながら完成度を高める。また、修士論文に記載される文献を確認・整理する。	特別研究法Ⅲで作成した修士論文（特定の課題に関する研究）の結論を熟読する。また、記載する文献の記載に間違いがないかを確認する。	4時間
第7回	修士論文（特定の課題に関する研究）の完成 第2～6回の授業を振り返り、修士論文（特定の課題に関する研究）を完成させる。	修士論文（特定の課題に関する研究）の様式や提出期限を確認する。また、提出に必要な関連書類を準備する。	4時間
第8回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の抄録作成 修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の抄録を作成する。	過去の大学院生の抄録を見て構成を理解し、研究計画書や研究結果を確認する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第9回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の発表スライド作成 修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の発表スライドを作成する。	作成した抄録に沿って修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の発表スライドの構成を検討する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第10回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の予行練習 修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の予行練習を行う。また、発表練習を繰り返して行いながら、抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に改善を加える。	第9回の授業で発表スライドを見直して発表練習を行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第11回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査のスライドの検討 抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に誤字脱字がないか、分かりやすいかなどを副指導教員にチェックしてもらって改善する。また、発表における話し方などをチェックしてもらい、適切な発表ができるようになる。	第10回の授業で受けた助言を抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に反映させて練習を行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第12回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の発表練習 副指導教員と修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の準備を行う。具体的には、何度も発表練習しながら、スライドや発表する際の話す内容（原稿）を修正する。また、質疑応答の練習を行う。	第11回の授業で受けた助言を抄録や発表スライド、発表する際の話す内容（原稿）に反映させて改善する。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第13回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の最終準備 修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査の最終準備を行う。具体的には、抄録やスライドに誤字脱字がないかをチェックしたり、発表する際の話す内容（原稿）を確認する。最後に何度も発表練習を行いながら質疑応答の対策も行う。	抄録やスライド、発表する際の話す原稿を見直す。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間
第14回	修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査 修士論文（特定の課題に関する研究）の最終審査を行う。その際、多様な意見に対して理解を示し、質疑に簡潔かつ的確に回答することを学修する。	最終審査での発表練習を入念に行う。また、指導教員以外の大学院担当教員に助言を求める。	4時間

授業科目名	アカデミックイングリッシュ				
担当教員名	林綾子・各指導教員				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

【授業概要】 スポーツ学に関する英語論文講読とプレゼンテーションに取り組むことから、専門分野に関する国際的アプローチへの一歩を踏み出す。

【到達目標】

- 1) 学術領域、特にスポーツ分野にて用いられる英語の語学力を高め、専門領域に関する英語論文を読みとくことができる。
- 2) 英語論文講読により得られた情報を整理し、レビューすることができる。
- 3) 自身の研究テーマと照らし合わせ、レビュー内容を英語にてプレゼンテーションすることができる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません	この項目は使用しません

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
 - ・各自の取り組みに対し、授業担当者・指導教員にて随時フィードバックを行います。

成績評価

注意事項等

- ・レビュー内容(50点)・プレゼンテーション(50点)により評価を行う。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学術論文検索・用語理解	20 %	： 英語論文講読に必要な専門用語の整理、関連学術雑誌の探索、アブストラクトの検索、分野における重要論文の検索について、ファイリングし、その内容を評価する。
学術論文のレビュー	40 %	： 自身のテーマに関する重要論文3編を読み込み、作成したレビューレポートを評価する。
アカデミックプレゼンテーション	40 %	： レビュー内容を中心に、自身の研究テーマに関連付けた英語でのアカデミックプレゼンテーションを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自指導教員と確認すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

特別研究Ⅰ・Ⅱでの取り組み、修士論文研究に役立つよう、指導教員とよく相談の上進めること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 イントロダクション（林綾子） 英語論文購読に必要な基礎的専門用語の確認と、専門分野に関する論文検索方法の確認・検索を行う。	自分の領域における専門用語の確認、関連学会・学術雑誌・データベースについて調べ、指導教員と確認し、各自のテーマに沿った論文検索を開始する。	4時間
第2回 英語論文講読のための基礎知識①（林綾子） 専門分野における海外の学術雑誌、データベースについて調べ、検索を開始する。	abstractの理解から、論文検索を実施する。	4時間
第3回 英語論文講読のための基礎知識②（林綾子） 英語での論文を読むコツ、多様なアプリ等の活用について学ぶ。	abstractを読み、参考になる論文を絞り込む。	4時間
第4回 論文選択（指導教員） 集めた論文から、参考になり、読み込む論文を指導教員の助言を受け、選ぶ。	各自論文を読み、まとめる。	4時間
第5回 論文講読（指導教員） 選んだ論文を講読する。内容のまとめ方、理解の確認を指導教員と行う。	必要に応じてさらに論文を検索し、講読する。	4時間
第6回 レビューペーパーの作成（指導教員） 読んだ論文をまとめ、レビュー作成にとりかかる。	必要に応じてさらに論文を検索し、講読する。	4時間
第7回 レビューペーパーの確認（指導教員） レビューを指導教員と確認し、必要に応じて修正を行う。	レビューペーパーを完成させ、提出する。	4時間
第8回 英語での研究発表について（林綾子） 英語の研究発表についての基礎を確認し、レビューをプレゼンテーションへと発展させる。	パワーポイントの作成にとりかかる。	4時間
第9回 英語プレゼンテーション作成①（指導教員） パワーポイントを作成し、指導教員と確認する。	パワーポイントの修正を行う。	4時間
第10回 英語プレゼンテーション作成②（指導教員） 完成したパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う原稿を作成する。	各自原稿作成に取り組む。	4時間
第11回 英語プレゼンテーションの練習①（指導教員） パワーポイントと原稿を用い、英語でのプレゼンテーションの練習を行う。	各自必要に応じて修正を行い、発表練習を行う。	4時間
第12回 英語プレゼンテーションの練習②（指導教員） 原稿とパワーポイントを用い、プレゼンテーションの練習を行う。指導教員からのフィードバックを受け、修正や練習を行う。	フィードバックを受け、各自の課題を明確に理解する。	4時間
第13回 英語プレゼンテーション合同練習（林綾子） 各自用意してきた英語でのプレゼンテーションを合同で練習を行い、最終プレゼンテーションに向けたフィードバックを受け、修正を行う。	フィードバックを受け、各自の課題を明確に理解する。	4時間
第14回 英語プレゼンテーションの実施（林綾子・指導教員） 自分のテーマに関する論文購読より作成したレビューについて英語でプレゼンテーションを行う。お互いのプレゼンテーションの評価を行う。また、教員からのフィードバックを受ける。全体をふりかえり、まとめ、今後の研究活動にどのようにつなげていくか考える。	修士論文製作・研究活動に積極的に取り込んでいけるよう課題を明確にする。	4時間

授業科目名	スポーツフィールド・プラクティカム				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	1	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、多種多様な人々と協働しながら、主体的にスポーツの発展に伴う課題やスポーツが社会に寄与できる課題等を解決できる力を培うことを目指す。具体的には、指導教員をはじめとした多様な大学院担当教員とスポーツフィールドについて意見を交換し、スポーツフィールドにおける主体的にスポーツの発展に伴う課題を検討する。次に、スポーツフィールド・プラクティカムにおける準備、実習を行う。実習中においては、実習日誌を作成して振り返りができるように詳細に行動を記録する。最後に、実習内容や成果について大学院担当教員や他の大学院生に対して的確なプレゼンテーションを行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP3. 思考・判断・表現	プレゼンテーション能力	自分の考えを適切にプレゼンテーションできる。
2. DP4. 学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性）	主体的にスポーツの発展に伴う課題やスポーツが社会に寄与できる課題に対する解決力	主体的にスポーツの発展に伴う課題やスポーツが社会に寄与できる課題を解決できる。

学外連携学修

有り(連携先：専門領域・実習内容による)

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)
- ・その他(以下に概要を記述)

遠隔授業の有無については、指導教員と相談してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション

50 %

レポート

50 %

評価の基準

： 第14回の授業において、プレゼンテーションの完成度を5段階で評価する。

： 実習後のレポートの妥当性を5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	<p>事前指導①</p> <p>スポーツフィールド・プラクティカムの概要や流れを理解する。また、指導教員とスポーツフィールドについて意見交換し、スポーツフィールドにおける主体的にスポーツの発展に伴う課題を検討する。</p>	<p>スポーツフィールド・プラクティカムを終えた大学院生や他の大学院担当教員と意見交換を行う。</p>	4時間
第2回	<p>事前指導②</p> <p>スポーツフィールド・プラクティカムに必要な書類について指導教員に確認し、大学院教務専門委員会や教務課に提出する書類を作成する。</p>	<p>スポーツフィールド・プラクティカムを終えた大学院生や大学院教務専門委員会委員長に助言をもらう。</p>	4時間
第3回	<p>事前指導③</p> <p>スポーツフィールド・プラクティカムの受入先に連絡し、必要な書類を郵送あるいは直接手渡す。必要な場合、スポーツフィールド・プラクティカムの受入先に訪問して実習内容を詰める。</p>	<p>指導教員や教務課にスポーツフィールド・プラクティカムの様式を再確認する。</p>	4時間
第4回	<p>実習①</p> <p>自身の課題を念頭において実習①を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。</p>	<p>実習の日程や内容、自身の課題を確認する。</p>	4時間
第5回	<p>実習②</p> <p>自身の課題を念頭において実習②を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。</p>	<p>実習①の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返り、実習②に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第6回	<p>実習③</p> <p>自身の課題を念頭において実習③を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。</p>	<p>実習②の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返り、実習③に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第7回	<p>実習④</p> <p>自身の課題を念頭において実習④を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。</p>	<p>実習③の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返り、実習④に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第8回	<p>実習⑤</p> <p>自身の課題を念頭において実習⑤を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。実習前半（実習①～④）を振り返り、実習後半に向けて自身の課題がどの程度達成できたかを自己評価する。</p>	<p>実習④の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返り、実習⑤に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第9回	<p>実習⑥</p> <p>自身の課題を念頭において実習⑥を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。</p>	<p>実習⑤の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返ったり、実習後半に向けて自身の課題がどの程度達成できたかを自己評価から実習に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第10回	<p>実習⑦</p> <p>自身の課題を念頭において実習⑦を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。</p>	<p>実習⑥の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返り、実習⑦に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第11回	<p>実習⑧</p> <p>自身の課題を念頭において実習⑧を実施する。また、その日の実習日誌を詳細に記載し、実習担当者から評価や助言をもらう。実習後半（実習⑤～⑧）を振り返り、実習後半において自身の課題がどの程度達成できたかを自己評価する。また、実習全体について総括する。</p>	<p>実習⑦の実習日誌や実習担当者から評価や助言を振り返り、実習に向けて改善すべき行動を整理する。</p>	4時間
第12回	<p>事後指導①</p> <p>スポーツフィールド・プラクティカムの実習内容について指導教員に報告を行う。また、スポーツフィールドにおける主体的にスポーツの発展に伴う課題を課題できたかを検討する。</p>	<p>実習①～⑧における実習日誌を振り返り、自身の課題が達成できたかを自己評価する。</p>	4時間
第13回	<p>事後指導②</p> <p>スポーツフィールド・プラクティカムの実習内容のプレゼンテーションの 슬라이ドを作成し、発表練習を行う。</p>	<p>プレゼンテーションの 슬라이ドに用いる写真や動画を収集する。</p>	4時間
第14回	<p>事後指導③</p>	<p>スポーツフィールド・プラクティカムを終えた大学院生や他の大学院担当教員にプレゼンテーションを見てもらう。</p>	4時間

スポーツフィールド・プラクティカムの実習内容のプレゼンテーションを行う。

授業科目名	スポーツ文化論特論				
担当教員名	黒須 朱莉				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目のねらいは、スポーツと社会の関係や、スポーツの可能性や在り方を展望できる能力を養うことにある。具体的には、スポーツ文化をスポーツ観、スポーツ規範、スポーツ技術・戦術、スポーツの物的事実といった観点から捉え、スポーツに関わる具体的事象を多角的な視点から解釈し、今後の展望について考察していく。また、文化とは、人々が創造し、伝承してきた物心両面にわたる総体であるため、スポーツに関わる事象を歴史的な観点から捉える姿勢も養っていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	スポーツ文化に関わる人文社会学的な知識の理解。	スポーツ文化に関する基礎的な理論を理解し、説明することができる。
2. DP3. 思考・判断・表現	スポーツ文化に関わる解釈や評価を言語化する能力。	スポーツと社会の関係を多角的に理解し、論じることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)
遠隔可能(要相談)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	： 各課題の内容を対象に、知識の習得、論理的思考を評価する。
40 %	
プレゼンテーション及び議論	： 具体的なスポーツ文化を対象に、調査内容を踏まえて今後の展望について論理的に述べられているか、他者の意見を踏まえて建設的な議論を展開することができているか評価する。
60 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、一方的な講義で完結せず、受講生の課題発表と活発な議論を重要な取り組みとして位置付けている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	随時
場所：	メール
備考・注意事項：	質問等あれば、基本的には事前にメールで連絡すること (kurosu@g.bss.ac.jp)。メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「学籍番号」を明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツ文化の基礎的理解①（スポーツ観、スポーツ規範） 学術書や論文を輪読しながら、基本的なスポーツ観、スポーツ規範の理論的枠組みについて理解する。	第1回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第2回 スポーツ文化の基礎的理解②（スポーツ技術・戦術、スポーツの物的事象） 学術書や論文を輪読しながら、基本的なスポーツ技術・戦術、スポーツの物的事象に関する側面を理解する。	第2回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第3回 スポーツ政策の理解 学術書や論文を輪読しながら、基本的なスポーツ政策という領域について、身近な国内のスポーツに関わる政策（施策）に関わる事例を通して理解する。	第3回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第4回 スポーツにおけるナショナルティの理解①歴史 学術書や論文を輪読しながら、「スポーツにおけるナショナルティとは何か」について、歴史的なスポーツ・ナショナルティの事例を通して理解する。	第4回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第5回 スポーツにおけるナショナルティの理解②現代 「スポーツにおけるナショナルティとは何か」について、今日のスポーツ・ナショナルティの事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	第5回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第6回 スポーツ教育の文化性を理解する①歴史 学術書や論文を輪読しながら、「スポーツ教育とは何か」について、歴史的なスポーツ教育の事例を通して理解する。	第6回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第7回 スポーツ教育の文化性を理解する②現代 「スポーツ教育とは何か」について、今日のスポーツ教育の事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	第7回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第8回 スポーツ教育の文化性を理解する①歴史 「スポーツ経済とは何か」について、歴史的なスポーツの経済的側面に関する事例を通して理解する。	第8回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第9回 スポーツ教育の文化性を理解する②現代 「スポーツ経済とは何か」について、今日のスポーツの経済的側面の事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	第9回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第10回 スポーツ・メディアの文化性を理解する①歴史 「スポーツ・メディアとは何か」について、歴史的なスポーツ・メディア（新聞・ラジオ・TV）の事例を通して理解する。	第10回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第11回 スポーツ・メディアの文化性を理解②現代 「スポーツ・メディアとは何か」について、今日のスポーツ・メディア（SNS等）の事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	第11回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第12回 スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解①歴史 「スポーツにおけるジェンダーとは何か」について、歴史的なスポーツとジェンダーの事例を通して理解する。	第12回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第13回 スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解②現代 「スポーツにおけるジェンダーとは何か」について、今日のスポーツとジェンダーの事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	第13回の授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第14回 スポーツにおけるテクノロジーの文化性を理解 「スポーツにおけるテクノロジーとは何か」について、歴史的かつ今日的なスポーツ・テクノロジーの事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解・考察する。	全14回で学んだ授業内容を復習する。	4時間

授業科目名	スポーツ文化論演習				
担当教員名	黒須 朱莉				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	＊				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目のねらいは、スポーツの文化的特性を理解した上で、具体的に、スポーツ政策、スポーツナショナリズム、スポーツ教育、スポーツ経済、スポーツメディア、スポーツとジェンダー、スポーツテクノロジーについて、スポーツ観、スポーツ規範、スポーツ技術、スポーツの物的事実の4つの側面から分析できる能力を実践的に養うことにある。その実践の方法は受講生の関心にもとづいて可能な限り柔軟に対応する。例えば、スポーツ文化や歴史に関する学術書の輪読と議論、スポーツ映画を教材にした映画批評、スポーツ雑誌や報道を対象にした言説分析、学外でのフィールドワークなどが挙げられる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	スポーツ文化を分析する視点と評価	現在のスポーツに関する現象をスポーツ文化の4つの側面から分析を試み、自らその特性を理解できる。
2. DP4. 学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性）	スポーツ文化の展望	スポーツ文化のよりよい発展について自らの言葉で説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
 - ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
 - ・その他(以下に概要を記述)
- 遠隔授業（要相談）

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

50 %

課題レポート

50 %

評価の基準

： 毎時の課題内容と議論への参加度を対象に、スポーツ文化に関わる事象を主体的に捉え、思考しているかを評価する。

： 学期末に行う課題レポートを対象に、スポーツ文化に関わる事象について、理論や歴史の視点から分析できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は受講生の課題発表、議論を中心的な取り組みとして位置づけている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： メール

備考・注意事項： 質問等あれば、基本的には事前にメールで連絡すること（kurosu@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「学籍番号」を明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツ文化の構造を理解①準備 スポーツ文化の基本的な構造をおさえながら、スポーツ文化について受講生の考えを出し合い、「自身とスポーツ文化」との関係の自覚し、発展的に考察するための土台をつくる。	次回扱う文化変容に関連する事象として該当する事例をまとめてくる。	4時間
第2回 スポーツ文化の構造を理解②発展的考察 スポーツ文化について受講生の考えを出し合い、今日における文化変容に関わる事例を各自の視点から議論し、スポーツ文化に対する考察を多角的に深める。	テキストの予習と次テーマ（政策）に関するスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第3回 スポーツ政策の文化性を理解①準備 政府によるスポーツ政策について事例を調査し、その意図と意義についての理解を深める。	次回に向けて同テーマの第3回で扱ったテキストの復習を行う。	4時間
第4回 スポーツ政策の文化性を理解②発展的考察 地方レベルのスポーツ政策について事例を調査し、その意図と意義についての理解を深める。そのうえで、第3回の内容も踏まえて議論を通して、既存の政策に対する批判的な考察を行う。	テキストの予習と次テーマ（ナショナリティー）に関するスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第5回 スポーツにおけるナショナリティーの文化性を理解①準備 スポーツにおけるナショナリティーにはどんなものがあるか、具体的な事例を通して理解を深める。	次回に向けて同テーマの第5回で扱ったテキストの復習を行う。	4時間
第6回 スポーツにおけるナショナリティーの文化性を理解②発展的考察 スポーツにおけるナショナリティーにはスポーツを行う者に何をもちたらすか、具体的な事例を通して考察を深める。	テキストの予習と次テーマ（スポーツ教育）に関するスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第7回 スポーツ教育の文化性を理解①準備 今日、どのようなスポーツ教育が行われているか、具体的な事例を通して理解を深める。	次回に向けて同テーマの第7回で扱ったテキストの復習を行う。	4時間
第8回 スポーツ教育の文化性を理解②発展的考察 スポーツ教育の役割について、具体的な事例を通して現代的な意義や課題に対する考察を深める。	テキストの予習と次テーマ（経済）に関するスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第9回 スポーツ経済の文化性を理解①準備 今日どのようなスポーツの経済的側面が注目を集めているのか、具体的な事例を通して理解を深める。	次回に向けて同テーマの第9回で扱ったテキストの復習を行う。	4時間
第10回 スポーツ経済の文化性を理解②発展的考察 今後のスポーツの経済的側面にはどのような視点が必要か、自分たちで出し合い多角的に考察を深める。	テキストの予習と次テーマ（メディア）に関するスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第11回 スポーツ・メディアの文化性を理解①準備 今日どのようなスポーツ・メディアによる活動が特徴的か、具体的な事例を通して理解を深める。	次回に向けて同テーマの第11回で扱ったテキストの復習を行う。	4時間
第12回 スポーツ・メディアの文化性を理解②発展的考察 今日のスポーツ・メディアの功罪は何か、具体的な事例を通して考察を深める。	テキストの予習と次テーマ（ジェンダー）に関するスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第13回 スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解①準備 スポーツにおけるジェンダーは、如何に受け止められているのか、具体的な事例を通して理解を深める。	次回に向けて同テーマの第13回で扱ったテキストの復習を行う。	4時間
第14回 スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解②発展的考察 将来、スポーツにおけるジェンダーは如何に受け止められるべきか、具体的な事例を通して今後の展望に関する考察を深める。	授業の総括として課題レポートに取り組む。	4時間

授業科目名	発育発達特論				
担当教員名	渡邊 裕也				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	＊				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	明治安田厚生事業団研究員，NPO法人京都運動器障害予防研究会理事として従事してきた一般の人々（子ども，勤労者，高齢者）の健康維持，増進につながる活動やアスリートのサポートといった実践経験を講義内容に活用している。				

授業概要

ヒトの一生を「生から死」という時間軸で捉えると，幼少期および青年期は形態発育や各種身体機能の発達が最も激しい時期であり，老年期は各種機能が衰え，人生の終焉へと向かう時期である。本授業では，ヒトの発育発達ならびに老化の過程を学ぶとともに，各ライフステージにおける身体的，精神的変化の特徴を理解する。また，スポーツ健康科学の視点から各ライフステージで生じる問題へのアプローチを議論する。現代社会において，スポーツ健康科学はすべてのライフステージの人々の健康維持，増進に大きな役割を果たすといえる。本授業を通じて，教育，研究，運動指導，選手サポート，保健医療分野での実践に役立つ基礎知識の習得を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	発育発達ならびに加齢に伴う身体の変化の理解	幼児期から高齢期までの発育発達，老化の経過で生じる身体の変化についての知識を身に付ける。
2. DP3. 思考・判断・表現	各年代の人々における健康課題についてのディスカッション	各年代の人々における諸問題を理解し，スポーツ健康科学の観点から解決策を提示できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)

状況に応じて遠隔授業が可能である。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

成績は，毎回の課題とレポートにより評価する。

成績評価の方法・評価の割合

各回の課題

評価の基準

： 各回の理解度を確認し，評価する。

50 %

期末レポート

： 授業で取り上げた内容の理解度を確認し，評価する。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「からだの発達と加齢の科学（大修館書店，2012）」高石昌弘 監修，樋口満，佐竹隆 編著

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位科目であり，毎回4時間程度の授業外学修が必要です。「授業外学修課題」に取り組むことに加え，授業内容を丁寧に復習してください。また，必要に応じて次回の授業の予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時
 場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンスと参考資料の紹介 授業の展開方法や注意点の説明し、参考資料や文献を紹介する。	人間の発育発達の概要を振り返り、理解を深める。	4時間
第2回 乳幼児の発育と発達的基础 乳幼児の発育・発達に関する基礎理論を理解する。	授業内容を整理し、乳幼児の発育・発達に関する重要なポイントをまとめる。	4時間
第3回 乳幼児の成長過程とその特性 乳幼児の成長過程を学び、発育・発達の特徴を捉える。	学んだ理論をもとに、発育発達に関する具体的な事例を考察する。	4時間
第4回 子ども（小・中学生）の成長と発達的基础 小・中学生の発育・発達に関する基礎理論を理解する。	授業内容を整理し、小・中学生の発育発達に関する基本的な概念をまとめる	4時間
第5回 学童期・思春期における発育発達の特徴 学童期・思春期の成長過程を学び、身体的・心理的变化を捉える。	学んだ知識をもとに発育発達の特徴とその支援の在り方を考察する。	4時間
第6回 高校生・大学生の成長と発達 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。	学んだ理論をもとに、小・中学生の発育発達の特徴をまとめる。	4時間
第7回 思春期後期から成人期への発育発達の特徴 思春期後期から成人期にかけての身体的・心理的発達を学び、その特徴を捉える。	学んだ知識をもとに、発育発達の特徴とそれに伴う課題を考察する。	4時間
第8回 発育発達における性差 発育発達段階における身体特性について、性差を中心に学ぶ。	発育発達段階における身体特性の違いを整理し、性差が及ぼす影響について考察する。	4時間
第9回 勤労者の健康維持増進①メタボリックシンドロームの視点から 20歳～64歳までの人々の健康維持、増進について、生活習慣病予防の視点で学ぶ。	勤労者の健康維持・増進における生活習慣病予防の重要性を整理し、具体的な対策を考察する。	4時間
第10回 勤労者の健康維持増進②ロコモティブシンドロームの視点から 20歳～64歳までの人々の健康維持、増進について、運動器機能維持の視点で学ぶ。	運動器機能の低下が健康に及ぼす影響を理解し、予防・改善のための具体的な対策をまとめる。	4時間
第11回 高齢者の健康維持増進①フレイル、サルコペニアの理解 65歳以上の人々の健康維持、増進において重要なフレイル、サルコペニアを理解する。	フレイルとサルコペニアの特徴を理解し、高齢者の健康維持のための具体的な対策をまとめる。	4時間
第12回 高齢者の健康維持増進②介護予防 65歳以上の人々の健康維持、増進について理解する。あわせて、介護予防の重要性について学ぶ。	多様な層の高齢者の具体的な支援策をまとめる。	4時間
第13回 健康維持、増進のための身体活動 各ライフステージにおける身体活動の重要性を学ぶ。	ライフステージごとの身体活動の特徴を理解し、健康への影響をまとめる。	4時間
第14回 まとめ 授業で取り上げてきた内容を振り返り、各ライフステージにおける身体の変化についての理解および健康維持、増進につながる働きかけを再確認する。	各ライフステージにおける身体の変化と健康維持・増進のための働きかけを整理する。	4時間

授業科目名	発育発達演習				
担当教員名	渡邊 裕也				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	明治安田厚生事業団研究員，NPO法人京都運動器障害予防研究会理事として従事してきた一般の人々（子ども，勤労者，高齢者）の健康維持，増進につながる活動やアスリートのサポートといった実践経験を講義内容に活用している。				

授業概要

本授業では，幼児期から高齢期までの発育発達および老化の過程を深く理解するとともに，各ライフステージにおける健康課題への対応について学ぶ。また，各ライフステージの対象者に適した身体組成，身体機能，身体活動量などの測定方法を習得し，発育発達や老化に関連する先行研究を読み解くことで，修士論文の研究実践に必要な知識と技能を身につけることを目指す。さらに，ヒトを対象とした研究実践に求められる思考力や判断力を養い，研究能力の向上を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	発育発達や老化に関連した先行研究の理解	学術論文を精読し，研究実践や論文執筆に必要な知識と技能を習得できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	ヒトを対象とした研究実践の理解	ヒトを対象とした研究実践について理解し，研究実践や論文執筆に必要な思考力・判断力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)

状況に応じて遠隔授業が可能である。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

成績は，毎回の課題とレポートにより評価する。

成績評価の方法・評価の割合

各回の課題

50 %

期末レポート

50 %

評価の基準

： 各回の課題は，先行研究の理解度，研究課題設定の妥当性，論理的な記述力を基準に評価する。

： 期末レポートは，研究テーマの明確性，先行研究との関連付け，方法論の妥当性，および論理的な構成力を総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて，授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位科目であり、毎回4時間程度の授業外学修が必要です。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、授業内容を丁寧に復習してください。また、必要に応じて次回の授業の予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時
場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンスと研究課題の明確化 本授業の到達目標と評価方法を確認し、発育発達研究の意義と研究的視点を整理する。	自身の研究テーマの背景と問題意識をまとめる。	4時間
第2回 研究テーマに関連する先行研究の探索方法 データベース検索方法と文献レビューの基本構造を学ぶ。	研究テーマに関連する国内外論文を5本選定し、要約する。	4時間
第3回 先行研究の理論的枠組みの整理 発育発達理論の整理と研究背景の構造化を行う。	各論文の理論的背景と研究目的を比較整理する。	4時間
第4回 研究方法の比較検討 対象・測定方法・統計処理の妥当性を検討する。	研究方法の相違点と利点・課題を表形式で整理する。	4時間
第5回 先行研究の課題抽出と研究課題の精緻化 先行研究の限界を分析し、自身の研究課題へ接続する。	自身の研究課題を具体的研究仮説として文章化する。	4時間
第6回 研究デザインの構築①（対象と測定） 対象設定・測定項目の妥当性を検討する。	研究計画書（対象・測定項目）を作成する。	4時間
第7回 研究デザインの構築②（倫理的配慮） ヒト研究における倫理と研究実施体制を整理する。	倫理的配慮事項を明文化する。	4時間
第8回 研究デザインの構築③（統計計画） データ分析計画と統計手法の選択理由を検討する。	統計処理計画を具体的に記述する。	4時間
第9回 データ収集と事前処理 データ整理方法と事前処理の基本を確認する。	仮想データを用いて前処理手順をまとめる。	4時間
第10回 統計解析と結果の可視化 統計解析結果の解釈方法と図表作成を学ぶ。	結果の図表を作成し、解釈を文章化する。	4時間
第11回 結果の考察と理論的接続 結果を理論と結び付けて考察する方法を検討する。	自身の研究の考察案を作成する。	4時間
第12回 研究計画発表と研究デザインの妥当性検討 研究計画を発表し、研究デザインの妥当性についてディスカッションする。	指摘事項を踏まえ研究計画を修正する。	4時間
第13回 研究結果発表と結果解釈の批判的検討 研究結果を発表し、結果解釈についてディスカッションする。	討論内容を踏まえ考察を再構成する。	4時間
第14回 振り返り（総合的な検討と今後の課題の整理） 研究の意義と今後の展望を整理し、総括討論を行う。	授業を振り返って、最終レポートとしてまとめる。	4時間

授業科目名	地域スポーツ特論				
担当教員名	黒須・中道・村瀬				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	＊				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域（および社会）とスポーツに関する学びを深めるために、主にスポーツ文化、障がい者スポーツ、高齢者スポーツに焦点をあてる。具体的には、スポーツを取り巻く社会の問題と変化、障がい者スポーツを理解するための障害の概念や障がい者スポーツの歴史的展開などについて、期待される高齢者スポーツを理解するための高齢者のおかれている現状やスポーツと健康増進の関係を生理的に学ぶことを通して、スポーツが地域社会に果たす役割やスポーツ・イン・ライフの可能性を理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	スポーツ・イン・ライフの意義と理念	スポーツが地域社会に果たす役割やとスポーツ・イン・ライフの可能性を理解する。
2. DP2. 知識・技能	スポーツ・イン・ライフの理論	スポーツ文化、障がい者スポーツ、高齢者スポーツを考えるための基礎知識を習得する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・その他(以下に概要を記述)

授業の際に各教員がそれぞれの方法でコメントする。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	各担当教員の授業に関し、授業内課題を提出させる。それらに記された全体の内容から理解度を評価する。担当者の成績を集計し、本科目の成績を判断する。	50 %
課題レポート	：	各担当教員の授業に関し、総括にあたるレポートを提出させる。それらに記された全体の内容から授業内容の理解度および課題に対する思考する力を評価する。担当者の成績を集計し、本科目の成績を判断する。	50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、各教員から紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業教室
備考・注意事項：	授業前後以外は、各教員にメールで問い合わせること。アドレスは授業内でも提示する。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス／社会とスポーツ（黒須） 当授業の前半（第5回まで）は、「社会とスポーツ」の関係に焦点をあてる。まず第1回目の授業では、前提となる「社会の状況とスポーツの関係性」について理解する。	第1回の授業の復習と次回の予習としてレジュメを作成する。	4時間
第2回 スポーツと社会を考える：歴史学の視点（黒須） 現代のスポーツと社会を捉えるための視点として歴史学における立場を採用し、社会で「問題」とされる事象の見方を学ぶ。	第2回の授業の復習と次回の予習としてレジュメを作成する。	4時間
第3回 スポーツと社会を考える：環境問題と国際的動向（黒須） 現代のスポーツと社会を捉えるための対象として環境問題と国際的動向に着目し、社会問題としての環境について理解する。	第3回の授業の復習と次回の予習としてレジュメを作成する。	4時間
第4回 スポーツと社会を考える：ポスト東京2020大会の国際関係（黒須） ポスト東京2020大会のスポーツと社会を捉えるための視点として国際関係論を採用し、国際社会で「問題」とされる事象の見方を学ぶ。	第4回の授業の復習と次回の議論に向けてレジュメを作成する。	4時間
第5回 スポーツと社会を考える：テクノロジーとスポーツ（黒須） 現代のスポーツの変容をテクノロジーとの関係から議論する。また、1回から5回までの総括として、4回までの内容の整理しつつ、第5回の議論を踏まえて「社会及び地域社会とスポーツ」の展望について議論する。	第1回から5回までの総括として課題レポートを作成する。	4時間
第6回 障がいとスポーツ①（中道） 障がい者スポーツの一構成概念である「障害」の諸相について障害学の視点から学修する。	資料を参考に、ICIDHとICFの特徴とその違いについて整理し、理解しておく。	4時間
第7回 障がいとスポーツ②（中道） 身体障がい者を中心とした地域での自立生活の歴史、そこでの主張および障害概念について学修する。	資料を参考に、障害者権利条約の批准・発効および障害者差別解消法の施行に至るまでの全国青い芝の会の活動を整理し、理解しておく。	4時間
第8回 障がいとスポーツ③（中道） 障がい者スポーツの歴史及び現状について学修する。	資料を参考に、ルートヴィッヒ・グットマンおよび中村裕の功績や理念を整理し、理解しておく。	4時間
第9回 障がいとスポーツ④（中道） 地域における障がい者スポーツの現状および課題について学修する。	資料を参考に、地域における障がい者スポーツ普及促進の必要性や課題、取組方策、関係者に求められる役割・取組を整理し、理解しておく。	4時間
第10回 障がいとスポーツ⑤（中道） アダプテッド・スポーツやインクルーシブ体育の理念と現状、今後の障がい者スポーツの展望について学修する。	第6回から10回までの復習をし、課題レポートを作成する。	4時間
第11回 スポーツと環境① <スポーツ科学と環境科学>（村瀬） スポーツ科学と環境科学の関係、およびスポーツが環境に与える影響について、実際の事例から考える。	第11回の授業の復習と次回の予習を行う。	4時間
第12回 スポーツと環境② <スポーツと大気汚染>（村瀬） 環境がスポーツに及ぼす影響のうち、特に大気汚染とスポーツとの関係について考える。	第12回の授業の復習と次回の予習を行う。	4時間
第13回 スポーツと環境③ <地球温暖化問題とスポーツ①>（村瀬） 環境がスポーツに及ぼす影響のうち、地球温暖化問題の歴史的経緯について考える。	第13回の授業の復習と次回の予習を行う。	4時間
第14回 スポーツと環境④ <地球温暖化問題とスポーツ②>（村瀬） 環境がスポーツに及ぼす影響のうち、地球温暖化問題とスポーツとの関係について考える。	第11回から14回までの総括として、課題レポートを作成する。	4時間

授業科目名	地域スポーツ演習				
担当教員名	黒須・中道・村瀬				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ文化、障がい者スポーツ、高齢者スポーツの3つのアプローチから地域（および社会）とスポーツについて深く学んでいく。具体的には、スポーツ文化と障がい者スポーツを対象とした諸研究群の批判的検討を行うことを通して、論点と研究上の課題を整理する。また、高齢者スポーツについては実際に測定、データ収集、解析を行い、その意味を理解、評価する。これらを通して、スポーツ・イン・ライフのあり方と地域（および社会）とスポーツの可能性について理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	スポーツ・イン・ライフの意義と理念	スポーツ・イン・ライフのあり方と地域（および社会）とスポーツの可能性について理解を深めることができる。
2. DP3. 思考・判断・表現	スポーツ・イン・ライフの課題と展望	スポーツ文化、障がい者スポーツ、高齢者スポーツにおける現状と課題から、理論的かつ実践的な今後の展望について論じることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ その他(以下に概要を記述)

授業の際に各教員がそれぞれの方法でコメントする。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

50 %

課題レポート

50 %

評価の基準

： 各教員の授業に関し、実習および議論への参加度を対象に、地域スポーツに関わる現状を主体的に捉え、思考しているかを評価する。担当者の成績を集計し、本科目の成績を判断する。

： 各教員の授業に関し、授業の課題レポートを対象に地域スポーツに関わる現状について、自然科学、人文科学の視点から分析できているかを評価する。担当者の成績を集計し、本科目の成績を判断する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業前後以外は、各教員にメールで問い合わせること。アドレスは授業内でも提示する。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツ文化（近代オリンピック）基礎①（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、社会との関係を論じた学術書および論文を輪読し、理解を深める。	第1回の授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第2回 スポーツ文化（近代オリンピック）人権②（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、人権という視点から社会とスポーツの関係を、テキストの輪読と議論を通して理解する。	第2回の授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第3回 スポーツ文化（近代オリンピック）環境③（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、環境という視点から社会とスポーツの関係を、テキストの輪読と議論を通して理解する。	第3回の授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第4回 スポーツ文化（近代オリンピック）平和④（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、平和という視点から社会とスポーツの関係を、テキストの輪読と議論を通して理解する。	第4回の授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第5回 スポーツ文化（近代オリンピック）まとめ⑤（黒須） 第4回までの授業の振り返りをおこない、議論を通して浮かび上がった各論点について事例を素材にしながら議論する。	第1回～5回までの授業の復習と課題レポートを作成する。	4時間
第6回 障がい者のスポーツへの社会化①ー障がいを無意味化するスポーツ（中道） 障がい者のスポーツへの社会化に関わる書籍（障がいを無意味化するスポーツのルールや用具に着目したもの）をレポートにまとめ、これをもとにディスカッションを行う。	第6回の授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第7回 障がい者のスポーツへの社会化②ー日常生活とスポーツ（中道） 障がい者のスポーツへの社会化に関わる書籍（障がいのある日常生活とスポーツとの関係に着目したもの）をレポートにまとめ、これをもとにディスカッションを行う。	第7回の授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第8回 障がい者のスポーツへの社会化③ースポーツ参加と障がい受容の関連性（中道） 障がい者のスポーツへの社会化に関わる書籍（スポーツ参加と障がい受容の関連性に着目したもの）をレポートにまとめ、これをもとにディスカッションを行う。	第8回の授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第9回 障がい者スポーツの諸相①（中道） オリンピック・パラリンピック教育の現状と課題を整理し、障がい理解教育のあり方についてディスカッションを行う。	第9回の授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第10回 障がい者スポーツの諸相②（中道） 第6回から第9回までの講義を踏まえ、自身の関心事にもとづいた障がい者スポーツに関わるトピックの現状や課題等についてレポートを作成し、発表する。	第6回～10回までの授業の復習と課題レポートを作成する。	4時間
第11回 スポーツ環境論①ー塩分濃度等ー（村瀬） スポーツ環境を簡単な測定器で調べることで、スポーツにとっての環境について理解し、意味を考える。最初に、市販のペットボトル中のスポーツ飲料等の塩分濃度、ナトリウム、カリウムイオン含量を調べ、データの意味を考える。	第11回の授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間
第12回 スポーツ環境論②ー汗を調べるー（村瀬） スポーツ活動と汗の関係について調べ、データの意味を考える。	第12回の授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間
第13回 スポーツ環境論③ー光と紫外線ー（村瀬） スポーツ活動に大きな影響を与える光と紫外線を調べ、データの意味を理解する。	第13回の授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間
第14回 スポーツ環境論④ー温度ー（村瀬） スポーツ活動に大きな影響を与える温度環境を調べ、データの意味を理解する。	第11回～14回の授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間

授業科目名	野外スポーツ特論				
担当教員名	林 綾子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Wilderness Education Association (US & Japan)、Outward Bound USAにて冒険教育プログラム、指導者養成プログラム指導、WEAJ理事・指導者資格認定者、Outward Bound Japan理事（全14回）				

授業概要

多様な目的・対象者・自然環境・展開方法にて行われる野外スポーツについて、スポーツや教育のフィールドとしての自然環境との関わり方や、野外教育・冒険教育・環境教育の理論的背景と実践の状況を通して理解する。

到達目標

- 1) 多様化するニーズに応じた展開を、実践事例や背景となる理論や研究結果から理解できる。
- 2) 指導や運営に関する知識、実践の評価や効果測定を実践から理解できる。
- 3) 自身の専門分野からの野外スポーツ実践や研究へのアプローチを見出すことができる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません。	この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題への取り組み	： トピックに関する課題への理解を評価する。
30 %	
グループプロジェクト	： グループにて実践課題に取り組み、準備・運営・評価までを評価する。
30 %	
個人プロジェクト	： 授業を通じた学びを自身の専門領域・興味と照らし合わせて設定した個人プロジェクトの成果を評価する。
40 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 「野外教育の理論と実際」(杏林書院)
- 「冒険教育の理論と実際」(杏林書院)

履修上の注意・備考・メッセージ

野外スポーツの基本は、人と自然との直接的な体験からより豊かな人生を目指すものです。多様な展開方法や可能性を理解することが、みなさんのスポーツ人としての幅を広げ、また他の人の豊かな人生の手助けできる手法の獲得となることを期待しています。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 授業の目的・課題・方法の理解 野外スポーツ特論導入 ・授業の目指しているもの、学習のための課題、進め方などについて理解する。 ・野外スポーツ特論の導入として、個人の体験をふりかえることから、野外スポーツ体験を理解し、野外スポーツとその関連概念を理解する。	授業の復習と、個人体験をふりかえり、その関連性を理解する。	4時間
第2回 スポーツとしての野外スポーツの多様性 ・多様な野外環境を活用した野外スポーツの種類、特性を理解する。 ・野外スポーツの現場での観察学習を実施し、それぞれの領域における専門性から状況を観察・理解し、ふりかえり、シェアリングすることで、現場の捉え方、研究的な視点を理解する。	興味のある野外スポーツについて、その特性・展開・研究成果を調べてくる。	4時間
第3回 体験学習・野外教育理論の理解 ・野外スポーツ体験を理解する上で重要な概念である”体験学習”の理論を理解し、野外教育基礎概念の理解へとつなげる。	授業の復習と、過去の体験学習についてふりかえり、理論と照らし合わせて理解を深める。	4時間
第4回 冒険教育の基礎概念 ・冒険の意義、冒険教育の歴史、冒険教育過程と理論的背景を理解する。	授業の復習と関連文献を読んでくる。	4時間
第5回 冒険教育の展開 ・冒険教育の多様な対象・目的に応じた展開と可能性について理解する。実技も取り入れる。	関連文献を読んでくる。	4時間
第6回 冒険教育の現状と課題・グループプロジェクト ・冒険教育に関するグループ小プロジェクトから、現状と課題について理解する。グループでの冒険教育プログラムを企画する。	グループにて冒険教育プログラムを企画する。	4時間
第7回 冒険教育プロジェクトの実施・評価 グループにてプログラムを企画・実施し、評価を行う。	一連のプロジェクトをレポートとしてまとめる。	4時間
第8回 アウトドアセラピューティックプログラムの基礎概念 ・アウトドアセラピューティックプログラムの対象者、目的、野外スポーツの活用方法について理解する。	関連文献を調べてくる。	4時間
第9回 アウトドアセラピューティックプログラムの展開 ・アウトドアセラピューティックプログラムの多様な展開について理解する。	興味のあるプログラムについて調べてくる。	4時間
第10回 アウトドアセラピューティックプログラムの現状と課題 ・アウトドアセラピューティックプログラムに関する小プロジェクトから、現状と課題について理解する。	課題についてまとめのレポートを作成する。	4時間
第11回 環境教育の基礎概念 ・環境教育の基礎概念、歴史、目的、方法を理解する。	関連文献を読んでくる。	4時間
第12回 環境教育の展開・現状と課題 ・環境教育の多様な目的・対象に応じた展開について理解する。	各自の興味に基づいたプログラミングを考える。	4時間
第13回 環境教育の実践 ・自然環境における活動ダメージを最低限に抑えるための「環境倫理」の理解とそのガイドラインLeave No Traceについて実践を通して理解する。	LNTの学びについてまとめる。	4時間
第14回 最終課題発表 ・これまでの理解をベースに、個人の最終課題を発表し、ディスカッションから互いに理解を深める。	最終レポートの提出	4時間

授業科目名	野外スポーツ演習				
担当教員名	林綾子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Wilderness Education Association (US & Japan)、Outward Bound USAにて冒険教育プログラム、指導者養成プログラム(指導)、WEAJ理事・指導者資格認定者。野外教育団体Outdoorsy Community ~ひらんちゅ~代表。(全14回)				

授業概要

野外スポーツに関連する研究成果を、主に教育・心理・健康・レジャーの観点から、国内外の文献を通して理解する。また、指導・実践に必要な専門知識を身に付け、プログラム実施を行うことから実践力を身に付ける。

到達目標

- 1) 野外スポーツ関連研究を概観し、現状や課題を説明することができる。
- 2) 野外スポーツ研究にて用いられている手法に関する専門知識が得られる。
- 3) プログラム実践に必要な専門知識を身に付け、理論や根拠をベースとした企画・運営を実践することができる。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

文献検索・先行研究のまとめ

30 %

グループプロジェクト

30 %

個人プロジェクト

40 %

評価の基準

： 興味に基づきまとめた先行研究に対して理解を評価する。

： グループにて実施した企画・運営を評価する。

： 自身の専門領域に関わる個人プロジェクト実施について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 「野外教育の理論と実際」(杏林書院)
「冒険教育の理論と実際」(杏林書院)

履修上の注意・備考・メッセージ

大学院レベルとして、確かな理論的理解・知識を反映させた実践力を身につけることを目指します。自身の思いをプログラム化し、安全に効果的に実践し、発展させるための評価・研究の手法も取り入れて総合的な学びを目指しましょう。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 授業の目的・課題・方法の理解 野外スポーツ演習導入 ・授業の目指しているもの、学習のための課題、進め方などについて理解する。 ・受講生の研究に関する興味・関心、実践面での経験・興味の把握する。	自身の興味や課題を明確にしておく	4時間
第2回 関連文献の理解、研究における現状の理解 ・それぞれの研究興味に基づいた関連領域に関する文献の収集・理解する。	文献検索、収集、読み込み	4時間
第3回 関連文献の理解、研究における課題の理解 ・文献の理解から、それぞれの領域における現状と課題を理解する（個人発表とディスカッション）。	課題に沿って、文献の内容をまとめる	4時間
第4回 テーマ設定と計画作成 ・理解した現状と課題から、今後の研究テーマの可能性を探る。	発表、ディスカッションにてあきらかになった課題を整理する	4時間
第5回 野外スポーツプログラムの企画 ・グループにて野外スポーツプログラムを企画する。	興味のある対象や内容、目的に関して調べる	4時間
第6回 野外スポーツプログラムの準備 ・グループにて野外スポーツプログラムの準備を行う。	グループにて企画・実践するプログラムの決定・準備	4時間
第7回 野外スポーツプログラム実践 ・グループにて野外スポーツプログラムの実践を行う。	プログラム実践をふりかえる、評価をまとめる。	4時間
第8回 野外スポーツプログラム実践をふりかえる ・実際に行ったプログラムを評価する。	プログラム評価より、課題を明らかにする	4時間
第9回 野外スポーツ研究計画 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案する。	興味のある野外スポーツ関連文献を調べ、テーマを明確にする	4時間
第10回 野外スポーツ研究計画準備 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案し、準備する。	研究計画をたて、必要な準備を行う	4時間
第11回 野外スポーツ研究計画実施 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案し、実施する。	調査を実施する	4時間
第12回 野外スポーツ研究計画実施評価 ・研究結果を分析し、結果から考察を行う。	調査結果を分析し、結果を考察し、発表の準備を行う	4時間
第13回 野外スポーツ研究発表 ・研究結果の発表、ディスカッション、評価を行う。	ディスカッションや評価から、研究結果をまとめる	4時間
第14回 まとめ ・行った実践や研究をふりかえり、今後の個人における課題を明確にする。	今後の研究や実践についての方向性を明らかにし、レポートにまとめる	4時間

授業科目名	学校スポーツ特論				
担当教員名	黒澤寛己・大西祐司				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己：高等学校教諭の経験を授業内容に活用している。				

授業概要

体育科教育学とは、体育科教育の原理を追求し、体育授業の絶えざる改善に役立てようとする学問領域である。その中でも体育科教育学における基礎理論を中核において授業を展開する。体育科教育学が専門科学分野として成立してから現在に至るまでの歩みを、諸外国の動向と合わせて学んでいく。具体的には、①体育科のカリキュラム論、②教授・学習指導論、③体育教師教育論、④体育科教育学の研究方法論である。受講生には、これまでの被授業経験や授業実践と基礎理論を往還させながら、専門的な学びを深めてほしい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	体育科教育に関する理論と、国内外の学校で実践されている体育授業の指導法。	多角的な視点から、体育授業を分析・検討する力を身に付ける。
2. DP2. 知識・技能	体育科教育の理論に基づいた、指導に関する知識と技能。	理論に基づいた、体育授業を計画・実践できる技能を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎時の課題レポート

： 毎時の授業テーマに則した課題レポートの提出を求める。その内容の理解度を評価する。

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高橋健夫ほか編著 (2010) 新版 体育科教育学入門 (大修館書店)
 武田清彦ほか編著 (1997) 体育科教育学の探求 体育授業づくりの基礎理論 (大修館書店)
 岡出美則ほか編 (2015) 新版 体育科教育学の現在 (創文企画)

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外の学習課題に取り組むことに加えて、講義内容に関連する文献や資料などについて自主的に予習・復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
 場所： 黒澤寛己・大西祐司研究室
 備考・注意事項： 面談を希望する場合は、事前にアポイントを取ること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 体育科教育学の基本的性格 体育科教育学の成立 体育科教育学の対象と方法	体育科教育学の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第2回 学校体育を取り巻く状況 体育科の危機的状況 諸外国の動向	学校体育の現状の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第3回 体育科のカリキュラム論①（大西） 体育科カリキュラムの位置付けと役割	体育科カリキュラムの復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第4回 体育科のカリキュラム論②（大西） 体育科カリキュラムの社会的・政治的諸相	体育科カリキュラムの変遷の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第5回 体育科のカリキュラム論③（大西） 体育科カリキュラムの目標、教科内容、評価	体育科の目標や内容の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第6回 教授・学習指導論①（大西） 英語圏にみる学習指導論	海外の学習指導論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第7回 教授・学習指導論②（大西） 教師行動論（教授技術、相互作用）	教師行動論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第8回 教授・学習指導論③（黒澤） 学習者論（素朴概念、運動有能感）	学習者論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第9回 体育教師教育論①（黒澤） 体育教師像の動向と課題	体育教師教育論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第10回 体育教師教育論②（黒澤） 教師の成長過程と支援体制	教師の成長過程の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第11回 体育教師教育論③（黒澤） 国内外にみる教員養成のスタンダード	国内外の教師論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第12回 体育科教育学の研究方法論①（大西） 体育科教育学研究の動向と課題	体育科教育学研究の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第13回 体育科教育学の研究方法論②（黒澤） 体育科教育学研究における量的研究	体育科教育学研究の量的研究の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第14回 体育科教育学の研究方法論③（黒澤） 体育科教育学研究における質的研究	体育科教育学研究の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間

授業科目名	学校スポーツ演習				
担当教員名	黒澤寛己・大西祐司				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己：高等学校教諭の経験を有する教員が担当し、これまでの教育活動を指導に結び付けている。				

授業概要

学校スポーツ教育に関連した論文を閱讀した後、自身で研究テーマを設定し、研究計画を立て、データの収集及び分析を行う。得られた結果をもとに、先行研究に照らし合わせて考察を進め、最終的には研究発表や討議形式で成果をまとめる。小中等学校の教育現場と連携し、実際の体育授業やスポーツ活動を対象として、現場での営みを科学する。受講生はこれまでの体育授業やスポーツ活動で教わる・教える立場を超えて、教育研究者としてそれらを「学ぶ」ことを目指す。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

- DP1. スポーツに対する関心・意欲

学校スポーツに関する研究課題の調査・分析

目標：

研究課題について、これまで学習した研究方法を用いて考察し、結果を発表する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

研究計画

50 %

研究成果の発表

50 %

評価の基準

： 先行研究の現状や課題を踏まえ、研究テーマが設定され、適切な研究方法が設定されているか。

： 収集したデータを正しく分析し、先行研究に照らし合わせて考察し、わかりやすくまとめられているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 高橋健夫ほか編著（2010）新版 体育科教育学入門（大修館書店）
 竹田清彦ほか編著（1997）体育科教育学の探求―体育授業づくりの基礎理論（大修館書店）
 岡出美則編著（2015）新版 体育科教育学の現在（創文企画）
 高橋健夫ほか編著（2003）体育授業を観察評価する（明和出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外の学習課題に取り組むことに加えて、関連する文献や資料などについて自主的に予習・復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 黒澤寛己・大西 祐司研究室

備考・注意事項： 面談を希望する場合は、事前にアポイントを取ること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 体育科教育学の研究領域の概略 体育科教育の実践のための理論的研究 体育科教育の実践的研究	体育科教育学の研究領域の概略をノートにまとめ、資料を整理する。	4時間
第2回 文献調査① 研究興味に基づいた文献を収集し理解する。	先行研究をノートにまとめ、資料を整理する。	4時間
第3回 文献調査② 文献理解から、現状と課題について整理し発表する。	収集した資料をノートにまとめ、学校体育の現状と課題を整理する。	4時間
第4回 文献調査③ 発表を踏まえ、不足している情報を収集する。	収集した資料をまとめ、発表資料を作成する。	4時間
第5回 研究テーマの設定と研究計画の作成 理解した現状と課題から、研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	研究テーマに関連した資料を集め、各分野ごとに整理する。	4時間
第6回 研究方法の検討 研究テーマに沿った対象、期間、分析方法、倫理的配慮について検討する。	研究方法をノートにまとめ、資料を整理する。	4時間
第7回 データの収集① 研究計画に沿ったデータを収集する。	授業観察記録を基に授業改善の課題をまとめる	4時間
第8回 データの収集② 研究計画に沿ったデータを収集する。	授業観察記録を基に、授業改善の提案資料を作成する。	4時間
第9回 データの分析① パソコンを用いてデータを入力し処理する。	入力したデータの確認を行う。	4時間
第10回 データの分析② 算出したデータをまとめ、比較し、統計処理などを行う。	作成したデータ資料の内容確認を行う。	4時間
第11回 考察 得られた結果から、先行研究をもとに考察を行う。	考察結果を分野ごとに分類する。	4時間
第12回 プレゼンテーション① 発表資料の作り方、発表の仕方について学ぶ。	研究の結果を発表するための資料を作成する。	4時間
第13回 プレゼンテーション② 発表資料の作成し、発表練習を行う。	授業中に指導された項目について、改善する。	4時間
第14回 プレゼンテーション③ 研究発表を行った後、受講生同士で討議する。	授業中の討議で指摘された点について、改善した資料を作成する。	4時間

授業科目名	健康教育特論				
担当教員名	股村 美里				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

健康および安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、社会・環境を改善していくことの必要性について、学校保健学、健康教育学、健康心理学、健康社会学に関する国内・国外の文献を通して理解するとともに、共に生きることにつながる健康教育の知識を獲得する。
【到達目標】
 地域における健康教育や学校における保健教育の指導者として現状の問題点やその改善につながる実践的な活動方法（教授法を含む）などを提示できる能力や研究方法の基礎を身に着ける。

養うべき力と到達目標

1. DP2. 知識・技能

具体的内容：

現代の子どもに関わる健康課題への理解。特に思春期の子どもに関わる問題行動についての知識。

目標：

健康教育に関する現代的課題について理解する

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

70 %

課題レポート

30 %

評価の基準

： 与えられたトピックについての理解度を評価する。

： 全講義終了後に締切とする与えられたテーマについて、指定された形式に則って作成されているか、論理的に記述されているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各授業内で適宜紹介する。
 また、関連する文献や資料には積極的にあたり、履修者内で共有できるような力量を高めること。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に文献や資料にあたり、見聞を広めること。興味関心のあるトピックを早い段階で定め、歴史から時事問題に至るまで、幅広く授業内で議論していく。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 股村研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかか る目安の時間
第1回 健康教育の目標① 健康の概念について研究論文に基づき総括する。健康概念の歴史の変遷についても触れる。	健康とは何か、自らの考えをまとめる	4時間
第2回 健康教育の目標② 健康の概念について研究論文に基づき総括する。健康を生涯にわたる発達、社会・環境、権利の視点からとらえることの重要性について考える。	健康とは何か、研究論文等の文献にあたりまとめる	4時間
第3回 健康教育の理論 健康教育、ヘルスプロモーションとは何かを概括する。健康教育の歴史も概括する。	健康教育、ヘルスプロモーションについて調べまとめる	4時間
第4回 健康教育の計画と実践 Preceed-Proceed Model、RE-AIMなどの健康教育の計画と実践について検討する。	健康教育プログラムの計画とその維持可能性について、理解を深める	4時間
第5回 健康教育実践例 地域における健康教育実践例を検討する。	地域における健康教育実践例について調べまとめる	4時間
第6回 学校保健と健康教育 学校保健における健康教育の位置づけを学ぶ。	学校保健における保健教育のうち、保健学習と保健指導の関連について調べ、まとめる	4時間
第7回 小学校における保健教育 小学校における保健教育内容・教材・実践例を検討する。	小学校における保健教育内容・教材・実践例について、調べまとめる	4時間
第8回 中学校における保健教育 中学校における保健教育内容・教材・実践例を検討する。	中学校における保健教育内容・教材・実践例について、調べまとめる	4時間
第9回 高等学校における健康教育 高等学校における保健教育内容・教材・実践例を検討する。	高等学校における保健教育内容・教材・実践例について、調べまとめる	4時間
第10回 保健教育における保健の授業 保健の授業の役割とその効果測定について学ぶ。	保健の授業の効果測定について国内外の文献にあたり、まとめる。	4時間
第11回 学校保健と子どもの健康 児童学童期における健康課題について俯瞰し、子どもの健康実態・背景を検討する。	児童学童期における健康課題について俯瞰し、子どもの健康実態・背景を国内外の文献にあたり、まとめる	4時間
第12回 思春期の子どもにおける健康課題 思春期とは何か、考えるとともに、その時期特有の健康課題とその教育的介入方法について検討する。	思春期とは何か、考えるとともに、その時期特有の健康課題とその教育的介入方法について調べ、まとめる	4時間
第13回 学校安全と安全教育 学校安全及び日本における災害発生時の対応、実態などについて過去の事例を基に議論する。	国内外のセーフティスクールの具体例を調べまとめる。	4時間
第14回 総括－健康教育のこれからを考える 健康教育及び児童生徒を対象とした保健教育・安全教育などについて学んだことを振り返り、まとめる。	授業全体の内容を通して学んだ知識について、復習し、まとめる。	4時間

授業科目名	健康教育演習				
担当教員名	股村 美里				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

保健科教育が学校教育及び学校保健の枠組みの中での位置付け、展開、諸外国で行われている保健教育を概観する。さらに、中学校、高等学校で特に注目されるテーマを取り上げる。学校現場での保健授業、保健教育活動や、授業を実施するにあたっての授業校正・運営・教材開発、授業評価、改善における課題を明確にする力量を高める。

【到達目標】

- ・健康教育を実践するにあたり必要な知識を説明できる
- ・現代的健康課題に関する知識と問題の所在を明らかにし、科学的根拠に基づいた健康教育を実践できる研究計画を立てることができる

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP3. 思考・判断・表現	健康問題に関する問題の所在に関する知識	健康教育を実践するにあたり必要な知識を説明することができる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	： 与えられたトピックについての理解度を評価する。
70 %	
最終レポート	： 模擬授業を振り返り、その改善点と効果測定、一般汎用性について論理的に述べられているかを重視する
30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業内で、文献、ホームページなどを紹介する予定。

履修上の注意・備考・メッセージ

これまで培ってきた健康教育、保健教育の知識を基盤として、それらの実践力および効果測定の力量を高め、研究につなげられるように互いに議論を深めよう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	オフィスアワー
場所：	股村研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ヘルスプロモーションと保健教育についての理解① ヘルスプロモーションとは 保健教育の基礎的知識を確認するとともに、現代の健康問題に対応したヘルスプロモーションとしての保健教育の重要性を理解する	保健教育について現在問題となっている事案について調べまとめる	4時間
第2回 ヘルスプロモーションと保健教育についての理解② 保健教育とは 保健教育の基礎的知識を確認するとともに、現代の健康問題に対応したヘルスプロモーションとしての保健教育の重要性を理解する	保健教育について現在問題となっている事案について調べまとめる	4時間
第3回 中学校における保健の授業① 性教育 心身の発達と心の健康のうち、性教育に関する国内外の研究にあたりまとめる	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第4回 中学校における保健の授業② ストレスへの対応 心身の発達と心の健康のうち、ストレス対処に関する国内外の研究にあたりまとめる	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第5回 中学校における保健の授業③ 健康と環境 健康と環境のうち、ごみ処理に関する国内外の研究にあたりまとめる	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第6回 中学校における保健の授業④ 傷害の防止 傷害の防止のうち、交通事故の現状と原因に関する国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第7回 中学校における保健の授業⑤ 自然災害 傷害の防止のうち、自然災害に備えることについての国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第8回 中学校における保健の授業⑥ 喫煙と健康 健康な生活と病気の予防のうち、喫煙と健康に関する国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第9回 中学校における保健の授業⑦ 睡眠と健康 健康な生活と病気の予防のうち、睡眠と健康に関する国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第10回 高等学校における保健の授業① 性感染症 現代社会と健康のうち、性感染症に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第11回 高等学校における保健の授業② 薬物乱用防止教育 現代社会と健康のうち、薬物乱用防止に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第12回 高等学校における保健の授業③ 飲酒と健康 現代社会と健康のうち、飲酒と健康に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第13回 高等学校における保健の授業④ 医薬品と健康 生涯を通じる健康のうち、医薬品と健康に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第14回 保健教育の在り方の振り返りと保健を「教える」ことの意味 本演習を通して経験したすべての事柄について振り返るとともに、「教える」ことの難しさとそれを乗り越える方法について検討する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間

授業科目名	臨床スポーツ医学特論				
担当教員名	小松 猛				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小松 猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療行為を行う教員が、スポーツ現場で医療が果たす役割についてについて講義する。				

授業概要

スポーツ医学のトピックスに必要な知識を学ぶ。具体的には、スポーツ外傷・障害の病態・診断・治療・リハビリテーション、競技におけるドーピング検査の実態、薬剤使用に関する注意などである。また、メディカルサポートの実態を知り、各競技団体が取り組む医療的サポートやメディカルスタッフの役割を学ぶ。そして、スポーツ現場での医学領域の重要性と、スポーツ外傷・障害、スポーツにおける整形外科的チェックを十分理解する

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	スポーツ外傷・障害を理解するために必要な、身体解剖と機能、異常が起こった場合に出てくる症状。	人体の解剖と機能を理解し、異常を来すメカニズムとその時に表れる症状に関する知識を習得できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	スポーツ外傷・障害が起こる原因を理解して、異常を発見するための診断能力、そして必要とされる対応方法。	目の前でスポーツ外傷・障害が起こった場合に、的確な診断と処置ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

試験	評価の基準
50 %	スポーツ医学に関する知識が十分理解できているかを、最終授業でまとめとして評価
20 %	授業で学んだことを適切な表現を用いて記載できているかを授業後に評価
30 %	授業中に学んだ内容に関するテーマについて、各項目終了ごとにプレゼンテーションを行い、内容が十分理解できているか、定められた形式に沿って行われているか、質問に対して的確な回答を述べられるかで評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンスとスポーツ医学の分野で学ぶべき概略 この授業では、スポーツ医学についてどのような内容を授業を通して学ぶべきかを理解する。	スポーツ医学全般について情報収集をする	4時間
第2回 スポーツ外傷への実践的対応：病態、診断 スポーツ外傷の原因、診断方法を、具体的に実践したり動画を見ながら実践的に学ぶ。	授業で学んだスポーツ外傷の内容について、著書などを読んで理解する	4時間
第3回 スポーツ外傷への実践的対応：治療、リハビリテーション スポーツ現場で実際に行われるスポーツ外傷の予防方法、治療方法について、手術やリハビリの動画を見ながら学ぶ。	授業で学んだ具体的なリハビリテーション方法について復習する	4時間
第4回 スポーツ障害への実践的対応：病態、診断 スポーツ障害の原因、診断方法について、動画を見ながら実践的に学ぶ。	授業で学んだスポーツ障害の内容については再確認しておく	4時間
第5回 スポーツ障害への実践的対応：治療、リハビリテーション スポーツ現場で実際に行われるスポーツ障害の対処方法（予防、治療）について、手術やリハビリの動画を見ながら具体的に学ぶ。	障害の具体的な予防やリハビリテーション方法について理解を深める	4時間
第6回 スポーツ外傷・障害をテーマとしたプレゼンテーション 第2～5回の間で学んだスポーツ外傷・障害に関するテーマをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。	作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する	4時間
第7回 競技スポーツにおけるメディカルサポート スポーツイベントにおける医事委員会の活動と救護活動について、具体例を挙げながら学ぶ。また、プロチームなどのトップアスリートのサポートにおいて注意しなければならない点など、一般のスポーツ選手と様々な点で異なる事情を理解する。	メディカルサポートの内容について復習する	4時間
第8回 薬・ドーピングについて ドーピングの定義、禁止物質や行為、必要な手続きなどを様々な事例を通して学ぶ。競技種目や状況によって違反となる薬物が異なる事や、最新情報についても学ぶ。日常生活の中で、使用に注意すべき薬の有効性と副作用について理解する。	日頃常用する薬の中でドーピング禁止となるものを復習しておく	4時間
第9回 スポーツにおける救急事例、血液感染について スポーツにおける救急事例の具体例を見るながら、現場での適切な対処方法を学ぶ。各競技団体が持っている具体的な安全対策を理解し、傷害予防のための実践方法について学ぶ。また血液感染の起こるタイミングや感染症の病態を知ること、その対策について理解を深める。	傷害予防に対する競技団体が行ってきた歴史を調べ、血液感染について復習する	4時間
第10回 女性アスリートに対するメディカルサポート 男性アスリートとは異なる女性アスリートが抱える医学的な問題に対して、解剖学的な構造と機能を理解することで、病態を深く知ると共に、必要な対応方法を学ぶ。	女性アスリートが抱える医学的な問題を理解できるように復習する	4時間
第11回 スポーツにおける内科的疾患に対する注意と対応（循環器系、脳神経系） 心臓、血管系の疾患、頭部外傷も含めた神経系の病態を理解し、突然死などの予防の対策、メディカルチェックの実態などを学習する。	循環器系、脳神経系の疾患に対する理解を深める	4時間
第12回 スポーツにおける内科的疾患に対する注意と対応（人体の恒常性、呼吸器系） 人間がいかなる環境においても活動するために必要な機能である恒常性（ホメオスタシス）について理解する。具体的には体温調節機能、身体を病原体から守るための免疫系について学ぶ。またスポーツ活動で重要とされる酸素摂取、二酸化炭素排出に関わる呼吸器系のメカニズムと、異常をきたした時に起こる疾患について理解を深める。	人体の恒常性、呼吸器系のメカニズムを復習する	4時間
第13回 授業内容をテーマにしたプレゼンテーション 第7～13回で学んだ内科系疾患に関するテーマをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。	作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する	4時間
第14回 講義全体のまとめ スポーツにおけるメディカルサポートを円滑に行うためのあらゆる医学的知識について、今までの授業内容を振り返りながら学ぶ。	今までの講義内容を資料などを見ながら振り返る	4時間

授業科目名	臨床スポーツ医学演習				
担当教員名	小松 猛				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小松 猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療行為を行う教員が、スポーツ現場で医療が果たす役割についてについて講義する。				

授業概要

競技スポーツ分野におけるスポーツ医学に関する主要な研究課題を理解し、自ら修士論文に発展可能な研究課題を探索、特定する。先行研究を探索し、未知の発見につながる研究課題を立案する。また、論文を繰り返し読み、メッセージを的確に読み取り、論文作成への足掛かりにする。そして、英語論文も含めたスポーツ医学の専門誌から複数の論文をピックアップし研究内容の方向性を検証し、研究計画をプレゼンし、具現化していく。研究方法として適切な対象、サンプルサイズ、研究方法の検討を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	スポーツで起こる外傷・障害について、最新の研究論文を検索してその知識の整理。	スポーツ特有の動きと、それによって起こる運動器の外傷・障害発生の関係が理解できる。
2. DP4. 学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性）	実際にスポーツ現場で想定される外傷・障害について、最も適切な対応方法の判断。	様々なスポーツ外傷・障害に対して、スポーツ復帰のために必要な対処方法の考え方を、最新の医学研究論文を通して身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
レポート課題	： 与えられた論文の内容を分かりやすく、適切な表現を用いて解説しているかを評価。
50 %	
プレゼンテーション	： あるテーマについて、適切に検索した論文を紹介し、自分なりの考えを分かりやすくまとめているかを評価。プレゼンテーションに使用したパワーポイントの内容についても評価する。
50 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要な際に、随時、資料をPDFなどで配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

第1回 **ガイダンスと医学論文の紹介**

学修課題

医学論文の特徴と雑誌の傾向について復習する

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	本講義の内容全体を聞き、医学論文が掲載されている雑誌とその特徴を学ぶ。		
第2回	研究テーマに従って、先行研究を模索 図書館・インターネットを利用する。医学論文雑誌を検索するためのサイトなどを知り、個人的に検索する幅を広げて様々な情報収集ができるようにする。	実際に自分の興味ある論文を検索する	4時間
第3回	先行研究の批判的な分析：検討項目の決定 先行研究について、批判的に検討する項目を決める。研究方法や分析方法が正しく行われているかを客観的に判断するポイントを学ぶ。	論文を読みながら、問題点をまとめる	4時間
第4回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の調査 批判的に検討するために、その領域のあらゆる先行研究を検索し、収集して論文を読む。	論文を読んで検討する分野の参考にする	4時間
第5回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の決定 批判的に検討する項目にしたがって、分野を決めて先行研究を検討してみる。	先行研究を繰り返して読み、客観的に評価するため内容を十分理解する	4時間
第6回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の評価 先行研究を読んで、内容に批判するような問題はないのかを検討して理解を深める。	先行研究論文の評価をまとめる	4時間
第7回	統計処理について学ぶ：統計学的検討の種類と内容 統計処理の基本を学ぶ。使用ソフトとその具体的な使用方法も理解する。	統計処理に関する復習をする	4時間
第8回	統計処理について学ぶ：適切な統計学的検討の選択 具体的なスポーツにおける数値を使い、統計処理を実施してみる。	実際のデータで統計処理を行い、スムーズにできるように実践を繰り返す	4時間
第9回	英語論文を読む：専門用語の把握 研究の参考となる適切な論文を検索し、読みながら内容を把握する。	論文の中にある専門的な表現を、繰り返し読むことで覚える	4時間
第10回	英語論文を読む：主旨を読み取る 検索した論文を読みながら内容を把握し、それを簡潔にまとめる。	授業で不足していた論文内容の理解度を、再確認して更に深める	4時間
第11回	英語論文を読む：自分のテーマとの相違 研究に参考となる適切な論文を検索し、読みながら自分のテーマにとって参考になるかを把握する。	複数の自分のテーマに近い英語論文を読む	4時間
第12回	英語論文を読む：分かり易いプレゼンテーション 読んだ英語論文を的確に分かりやすくプレゼンテーションする。	授業内で不十分であった点を改善する	4時間
第13回	自分の研究テーマを設定し、関連する文献の収集 指導教員と相談しながら検索した先行研究に加えて、研究の参考になるような医学論文の内容について検討しながら、関連した文献を収集する。	検索した論文を読んで、それが参考文献になるか判断する	4時間
第14回	研究テーマに関連した文献のまとめ 収集した関連文献を整理し、それをプレゼンテーションする。	自分のテーマとなる参考文献をまとめて、知識の整理をする	4時間

授業科目名	スポーツマネジメント特論				
担当教員名	山本・石井				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている（石井）				

授業概要

本講義では、スポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとしてみなし、スポーツ産業の市場拡大に向け、スポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングの論理と実践を総合的に学習する。

【到達目標】

- ・スポーツ組織の内部環境・外部環境・ブランドのマネジメントについて理解し、その実践方法を説明することができる。
- ・スポーツ消費者を対象としたマーケティングについて理解し、その実践方法を説明することができる。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

スポーツ組織論に関するレポート

25 %

スポーツマーケティングに関するレポート

25 %

授業を通じて学習した内容に関する論述試験

50 %

評価の基準

： 事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトやプロジェクトメンバーの動機付けと事業の評価に関する総合的な理解を評価する。

： ポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため行う、スポーツマーケティング・スポーツブランドマネジメント・スポーツスポンサーシップに関する総合的な理解を評価する。

： 授業を通じて学習した内容に関する総合的な理解を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著 ミネルヴァ書房）2017
 スポーツ産業論・第6版（原田宗彦編著 杏林書院）2015
 スポーツマネジメント（原田宗彦・小笠原悦子編著 大修館書店）2008
 スポーツマーケティング（原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高著 大修館書店）2008
 スポーツファイナンス（武藤泰明著 大修館書店）2008

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 コロナ禍に対応して、zoomを用いた授業展開も適宜実施した。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールにてアポイントを取ってください。
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツマネジメントとは ・ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について理解を深める。	配布資料を資料を読み返し、ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について復習しておく。	4時間
第2回 スポーツ産業・スポーツ市場とは ・少子高齢社会におけるスポーツ産業の個別市場規模（スポーツ実施率・スポーツ人口・延べスポーツ人口・財支出・サービス支出などの派生需要）を題材とした消費構造の変容、時系列上でスポーツ消費行動に影響を与える時代要因・世代要因、について理解を深める。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ産業について復習しておく。	4時間
第3回 スポーツ組織論：計画と組織化 ・スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ組織論：計画と組織化について復習しておく。	4時間
第4回 スポーツ組織論：実行と評価 ・スポーツ組織論の中でも、プロジェクトメンバーの動機付けと事業の評価について、ゴールセッティング理論、マズローの欲求階層説、アダムスの公正理論などの有名なマネジメント理論とともに学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ組織論：実行と評価について復習しておく。	4時間
第5回 スポーツマーケティング ・スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングと呼び、その代表的なコンセプトのマーケティングミックス（7P, 4C）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツマーケティングについて復習しておく。	4時間
第6回 スポーツブランドマネジメント ・コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジック（エクスペリエンス、エクイティ、レピュテーション、コミットメント、行動的・態度的ロイヤリティ）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツブランドマネジメントについて復習しておく。	4時間
第7回 スポーツスポンサーシップ ・スポーツアスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツスポンサーシップについて復習しておく。	4時間
第8回 スポーツ消費者関与 ・人々の情報処理や行動に影響を及ぼすだけでなく、多様化している消費行動を類型化する指標として有効であることが知られているスポーツ消費関与（IP, PCM, スポーツ観戦関与）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ関与について復習しておく。	4時間
第9回 スポーツ観戦者とスポーツファンの行動と心理（1） ・スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的変化の結果であることが分かっている。ここではスポーツファンの誕生のメカニズムについて学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ観戦者について復習しておく。	4時間
第10回 スポーツ観戦者とスポーツファンの行動と心理（2） スポーツ観戦行動に関する行動変数（デモグラフィック変数・観戦行動変数（エスカレーターモデル、応援チーム、同伴者、移手段、移動時間、交通費、チケット入手）、心理変数（観戦動機・チームアイデンティフィケーション・チームレピュテーション・ファンコミュニティアイデンティティ・地域愛着・選手愛着・スタジアム愛着・試合満足・サービス満足・再観戦意図）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ観戦者について復習しておく。	4時間
第11回 参加型スポーツのマネジメント ・国民の健康への関心が高まる中、ジョギング、トレーニング、フィットネスなどのような従来型のスポーツ参加に加え、市民マラソンやロードバイクのように、観光やアウトドア活動の側面から新しい形の参加型スポーツも台頭してきている。これらの現状と発展の方向性について議論する。	配布資料を資料を読み返し、参加型スポーツのマネジメントについて復習しておく。	4時間
第12回 するスポーツの消費者の行動と心理 行動的ロイヤリティ、態度的ロイヤリティ、スポーツ参加動機・動機づけ理論（内容理論・過程理論）、コミットメント、知覚価値、知覚評価、事前評価、事業評価、満足度、パーソナリティ特性・ライフスタイル特性について学習する。	配布資料を資料を読み返し、するスポーツの消費者行動と心理について復習しておく。	4時間

第13回	スポーツ施設マネジメント：これまでの変遷	配布資料を資料を読み返し、スポーツ施設マネジメントについて復習しておく。	4時間
・今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、ITテクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。			
第14回	スポーツ施設マネジメント：第一局面から第二局面へ	配布資料を資料を読み返し、スポーツ施設マネジメントについて復習しておく。	4時間
・第1局面から第2局面へと発展を遂げた今日のスポーツスタジアムの特徴を、先進的なプロスポーツの事例とともに学ぶ。			

授業科目名	スポーツマネジメント演習				
担当教員名	山本 達三				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメント研究（マーケティング論、スポンサーシップ、施設イベントマネジメント）の分野において、新しい理論を構築し、その妥当性を検討することのできる研究力を修得する。具体的には、スポーツマネジメントを構成する主要領域の特徴とそれぞれの独自性を理解し説明することができること、スポーツマネジメント研究の発展に向け、新しい知識を提供できる研究トピックを特定することができること、研究方法を、研究のデザイン、尺度、データ収集、統計分析を含め総合的に立てることができることを目指す。マネジメント分野の大学院生が履修した場合は、その学生の研究内容や分析手法に応じた統計内容などに変更して授業を実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません。	この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
先行研究のレビュー論文	： スポーツマネジメント分野の先行研究に基づいたレビュー論文を作成する。
40 %	
研究仮説の構築	： スポーツマネジメント分野の先行研究に基づいた研究仮説の構築を行う。
40 %	
研究計画の策定	： 先行研究、研究仮説に基づいた研究計画の策定を行う。
20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（2017）仲澤真，吉田政幸他．ミネルヴァ書房：京都

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限
場所： B311

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかか る目安の時間
第1回	スポーツマネジメント研究とは ・スポーツマネジメントが学問的知識体系として設立された歴史的背景を学習するとともに、スポーツマネジメント研究の独自性についても併せて理解を深める。	4時間
第2回	スポーツマネジメント研究の重要研究課題 ・スポーツマネジメント関連の学会大会や最新の学術論文の研究成果を基に、スポーツマネジメント研究の重要研究課題を特定し、今後の取り組み・方向性について議論する。	4時間
第3回	研究の種類デザイン ・スポーツマネジメント研究の種類を、研究のパラダイム(帰納法と演繹法)、研究の目的(記述、探索、確認、予測)、研究の方法(実験的研究と非実験的研究)に基づいて分類し、それぞれの特徴、違い、メリット/デメリットを理解する。	4時間
第4回	研究の進め方(1) ・先行研究の問題の特定の仕方理解するとともに、修士論文の第1章に含まれる緒言、疑問、研究の目的、研究の重要性、研究の範囲に関して、それぞれの内容や違いについても学習する。	4時間
第5回	研究の進め方(2) ・仮説の設定方法について、演繹的なアプローチに基づき、理論的な視座の組み立て方を、社会科学における理論や先行研究の理論的な発見とともに学習する。	4時間
第6回	調査尺度の種類 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度のそれぞれの特徴を理解するとともに、それらの違い、使い分け、使用上の注意点について学習する。	4時間
第7回	概念の定義と質問項目への変換 ・概念の定義とそれを基にした質問項目への変換について学習し、特に消費者心理を計測する場合の観測変数と潜在変数の関係性について理解を深める。	4時間
第8回	信頼性の検討 ・潜在変数を構成する観測変数の一貫性の検討方法を学習するとともに、併せて他の信頼性分析についても理解を深める。	4時間
第9回	妥当性の検討 ・妥当性の検討の基本的な考え方を理解するとともに、特に心理変数を検討する場合に必要な(1)翻訳的妥当性と(2)基準関連妥当性の検定方法について詳しく学習する。	4時間
第10回	仮説の検討 ・科学的な方法で仮説を検証する方法(帰無仮説と対立仮説のロジック)を学ぶとともに、正規分布、信頼区間、有意確率、タイプIエラー、タイプIIエラー、効果量について学習する。	4時間
第11回	統計分析(記述統計、t-検定、相関、回帰分析) ・記述統計(度数分布、平均、標準偏差)と基本的な推計統計(パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定、相関、回帰分析)について学習し、実際に統計分析を実施する。	4時間
第12回	統計分析(探索的・確認的因子分析) ・新しい因子構造の特定と尺度開発を目的とした探索的因子分析の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。 ・仮説に基づいて構成概念の因子構造を検討する確認因子分析の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。	4時間
第13回	統計分析(構造方程式) ・複数の要因間の関係性を分析することのできる構造方程式の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。	4時間
第14回	考察のまとめ方 ・結果の考察、研究の限界、今後の展望、結論のまとめ方について学習する。	4時間

授業科目名	トレーニング科学特論				
担当教員名	佃・禰屋・田中				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本オリンピック・パラリンピック委員会強化スタッフ（水泳、ソフトボール、スケート、パラバスケット他）、韓国Kリーグフィジカルコーチ等、オーストラリア・シンガポール強化指定選手の科学サポートを各教員が担当した。スポーツに関する科学的知見に基づいたトレーニングなどの支援や実践を授業内容に反映している。				

授業概要

スポーツ生理学・医学的なアプローチによるトレーニング科学やスポーツ実践の医・科学的問題を国内外の文献を通して理解し、運動のメカニズム、技術発達、トレーニング効果、スポーツコンディショニングについての知識を獲得する。コーチや指導者として、学習者の運動技能のつまづきや発育発達上の課題や身体機能に関する問題点を発見し、改善につながる基本的なトレーニングと実践的なトレーニング方法を提示できる能力を獲得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	スポーツやトレーニング科学分野における多様な課題やニーズ	年代別やカテゴリ別、競技別などあらゆるカテゴリにおけるトレーニング科学のニーズを理解する
2. DP2. 知識・技能	科学的根拠に基づくトレーニング論	最新のスポーツ生理学、トレーニング科学について、高度な専門知識を身につける
3. DP3. 思考・判断・表現	授業課題に応じたプレゼンテーション	科学的知見の限界と現場の課題について、プレゼンテーションにて発表できる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
 - ・問答法・コメントを求める
 - ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
 - ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
 - ・ディベート、討論
- 遠隔授業対応可

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

レポート

50 %

課題のプレゼンテーション

50 %

評価の基準

： トレーニング科学に関する知見のまとめについて、妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。

： プレゼンテーションとディスカッションについて、スポーツ現場の課題と合目的理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

資料として、教員が準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 トレーニング科学とコンディショニング (田中) 応用科学領域の学問構成について概説し、コンディショニングとコンディショニングの定義などを学習する。	予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う	4時間
第2回 コンディショニングの内的要因と外的要因 (田中) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得① アスリートのコンディショニングで内的要因に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。	予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う	4時間
第3回 現場の課題とコンディショニング評価の有効性 (田中) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得③ アスリートのコンディショニングでトレーニング計画に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。	予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う	4時間
第4回 (田中)	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第5回 発育発達とトレーニング (体力測定を含む) (新任) トレーニングの原則や体力領域の定義に関する知識及び発育発達と体力運動能力テストに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第6回 持久力・スピード・パワートレーニング (新任) 持久力トレーニング・スピード・パワートレーニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第7回 コンディショニングの把握と指標 (新任) フィジカルコーチの立場からコンディショニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第8回 トレーニングとスポーツ外傷・障害 (佃) 疫学研究に向けた用語の定義、国際的なコード分類について学ぶ トレーニング・身体活動と健康に関する研究について理解を深める	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第9回 トレーニングと予防 (佃) 健康に対するトレーニングは、何をどのくらい予防することができるのか？課される資料（文献他）を基にディスカッションを行う	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第10回 トレーニングの弊害 (佃) トレーニングに伴うリスクとリスクマネジメントを学ぶ	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第11回 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得 1 (彌屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う（論文は担当教員が準備する）	今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。また、次回の授業で用いる次の論文を検索して、選択しておくこと。	4時間
第12回 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得 2 (彌屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う（大学院生が検索して選択した論文を用いる）	今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。また、次回の授業で用いる次の論文を検索して、選択しておくこと。	4時間
第13回 文献・研究論文の抄読による自身の研究への応用 (彌屋) 全2回の文献・研究論文読解および、時間外での読解によって得られた知見を自身の修士論文作成のための研究にどのように応用していくかを考察する。次回のプレゼンテーション作成のための準備を行う	次回のプレゼンテーションの準備を行うこと	4時間
第14回 文献・研究論文の抄読による自身の研究への応用についてプレゼンテーション (彌屋) 前回準備したプレゼンテーションを実施し、今後の研究計画についての議論を行う。	プレゼンテーション時に得られた提案等を今後の研究にどのように活用するか検討すること	4時間

授業科目名	トレーニング科学演習				
担当教員名	佃・禰屋・田中				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃・禰屋・(新任)・田中：日本オリンピック・パラリンピック委員会強化スタッフ（水泳、ソフトボール、スケート、パラバスケット他）等、オーストラリア・シンガポール強化指定選手の科学サポート、滋賀県国民スポーツ大会代表選手のコンディショニングを各教員が担当した。これらのスポーツに関する科学的知見に基づいたトレーニングなどの支援や実践を授業内容に反映している。				

授業概要

スポーツ生理学的・トレーニング科学的な修士論文を作成する上で必要な研究計画や研究方法について、国内外の文献を通して理解する。パフォーマンスやコンディショニングに関するデータの収集、分析と評価に参加し、医科学的データをスポーツフィールドへ還元できる実践力を身に付ける。データの収集とフィードバックにあたっては、医科学的データを有効に使用方法についての検討も行う。

- ・基本的な測定方法や評価方法を身につける
- ・データの収集、分析と評価の実施についてプレゼンテーションおよびディスカッションできる

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	パフォーマンスやコンディショニングに関するデータの収集方法、分析と評価法	トレーニング科学に関する基本的な測定方法や評価方法を身につける
2. DP3. 思考・判断・表現	パフォーマンスやコンディショニングに関するデータの結果と解釈、表現方法	測定結果の分析方法やデータの特性に合わせた表現方法を身につける
3. DP4. 学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性）	身体活動を取り扱う測定姿勢とニーズに合わせたデータの加工	互いの意見を尊重しながら計画的に共同的に課題に取り組む力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

遠隔授業対応不可

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

課題レポート

50 %

プレゼンテーション

50 %

評価の基準

： 取り組んだ評価方法に関する内容と評価の課題について、妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。

： 実践的評価法の概説と分析結果の理解について、妥当性とわかりやすさについて、独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

資料として、教員が準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 コンディショニングの評価法と研究計画の立案 (個) これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を整理し、新たなコンディショニング指標を探索する。主に文献検索や資料収集から、研究計画に用いるコンディショニングの評価方法の検討を行う。	これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を予習する。また新たなコンディショニング評価方法についてまとめる	4時間
第2回 コンディショニングの評価法と実験方法の理解 (個) これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を整理し、新たなコンディショニング指標を探索する。主に文献検索や資料収集から、研究計画に用いるコンディショニングの実験方法の検討を行う。	新たなコンディショニング評価方法についてまとめる	4時間
第3回 現場で求められるコンディショニング課題について討議する (個) スポーツフィールドに向き、過去に使用されたコンディショニング評価法の測定評価を試みると共に、現場のコーチやスポーツドクター等にインタビューし、現場で求められるトレーナーの役割と関与の具体的方法について理解する。評価方法の妥当性と、実際に行った評価の有効性についてプレゼンテーションを行い、討議を行う。また最終的な評価報告書を作成する。	現場で実施された評価項目を抽出できるようにインタビューを準備する	4時間
第4回 トレーニングに関する横断的・縦断的研究計画、実験方法の理解 (新任) トレーニング刺激を用いた介入を含む横断的・縦断的実験計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	現場にフィードバックするための資料を作成する	4時間
第5回 体力テストに関する研究計画、実験方法の理解 (新任) 体力テストを用いた実験研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。	4時間
第6回 パフォーマンス分析やスポーツ戦術に関する実験方法の理解 (新任) 球技を対象としたゲームパフォーマンス分析の研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。	4時間
第7回 他者評価を用いたスポーツ技能に関する実験方法の理解 (新任) 他者評価を用いた個人のスポーツ技能や球技などの集団のスポーツ技能に関する研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。	4時間
第8回 傷害予防のための評価・改善方法の理解 (田中) 傷害予防に必要な評価法および改善法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する。	自身の専門種目ではどうか、文献を検索して読む。	4時間
第9回 傷害予防のための評価計画と立案 (田中) 傷害予防のための評価法を実践し、改善に向けたトレーニング計画を立案する。	実現可能かどうかについて、自身でトレーニングを実践する。	4時間
第10回 傷害予防のための評価・改善方法の研究計画 (田中) 傷害を予防するための研究を進める際に必要な研究計画、実験方法を理解する。	傷害予防のための研究を進める上で注意すべき点についてまとめる。	4時間
第11回 競技スポーツパフォーマンスの評価方法の理解 (生理学) (編屋) 競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する。	授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。	4時間
第12回 競技スポーツパフォーマンスの評価方法の理解 (トレーニング科学) (編屋) 競技スポーツのパフォーマンス評価としてトレーニング科学的側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する。	授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。	4時間
第13回 競技スポーツパフォーマンス向上に関する科学的介入の理解 (編屋) 競技スポーツのパフォーマンス向上に関するスポーツ科学的処方に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する。	授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。	4時間
第14回 競技パフォーマンス向上のためのリハビリやコンディショニングの実践方法の理解 (編屋) 競技パフォーマンス向上のためのリハビリやコンディショニングに関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する。	授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。	4時間

授業科目名	コーチング特論				
担当教員名	渋谷・吉川・林・北村				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	以下の実践経験から年齢、性別、競技種目、技能レベルに関わらず多様な学生に対応している。 渋谷俊浩（第1～3回）：日本スポーツ協会コーチデベロッパー、日本スポーツ協会コーチ4 林 弘典（第8～11回）：日本スポーツ協会コーチデベロッパー 北村 哲（第12～14回）：日本スポーツ協会コーチデベロッパー				

授業概要

我国の国際競技力を向上させるためには、競技の普及、アスリートの強化・育成はもとより、優れたコーチの養成が急務とされている。本授業では集団・個人競技におけるコーチ・コーチングに関する研究内容や方法について理解するとともに、それぞれの競技力向上に関する理論と知識を獲得する。また、アスリート個々の発育発達・チームの目標・競技レベルに応じた適切なコーチングが実践できるようになる。さらに、勝つためのコーチングを実践できるようになる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	コーチング現場における課題発見能力とその解決能力の習得	コーチング現場に存在する様々な課題・ニーズを発見し、各教員のコーチング実践を参考に、その解決・実現方策を検討・提案する。
2. DP3. 思考・判断・表現	コーチングの実践力の養成	各教員のコーチングを理解したうえで、自身のコーチングをスポーツ現場で実践する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・その他(以下に概要を記述)
「遠隔可能(要相談)」

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

4つのセクションの課題それぞれに、積極的に取り組んでください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題①レポート・プレゼンテーション等	20 %	： 第1回から第3回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート・プレゼンテーション等）の完成度について5段階で評価する。
課題②レポート・プレゼンテーション等	30 %	： 第4回から第7回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート・プレゼンテーション等）の完成度について5段階で評価する。
課題③レポート・プレゼンテーション等	30 %	： 第8回から第11回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート・プレゼンテーション等）の完成度について5段階で評価する。
課題④レポート・プレゼンテーション等	20 %	： 第12回から第14回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート・プレゼンテーション等）の完成度について5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1. スポーツ学のすすめ：びわこ成蹊スポーツ大学編（大修館書店）
2. 競技力向上のトレーニング戦略：テューダー・ボンバ、尾縣貢・青山清英監訳（大修館書店）
3. スポーツの戦術入門：ヤーン・ケルン、朝岡正雄・水上一・中川昭監訳（大修館書店）
4. スポーツ・コーチ学：嶋田出雲（不昧堂）
5. Reference Book（日本スポーツ協会、2021年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。コーチングの理論は実践してこそ意味のあるものである。各セクションで学修した理論を自分の心身をもって理解し、スポーツ現場での実践を試みる。参考：向上のプロセス「知る」⇒「わかる」⇒「できる」

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 課題と目標の理解（渋谷俊浩） ・学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 ・アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論を学修する。	先行研究・参考文献の要約集を作成する。	4時間
第2回 コーチング計画の実践：コーチング計画を立案するために必要な基礎理論の理解（渋谷俊浩） ・学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 ・アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論と知識を活用しながら、スポーツ現場でのコーチングの実践を通して、本学独自のアスリート育成プログラムを立案する。	実践結果をノートにまとめ、国内外のアスリート育成プログラムについて調べる。	4時間
第3回 コーチング計画の立案・発表（渋谷俊浩） ・学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 ・アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論と知識を活用しながら、スポーツ現場でのコーチングの実践を通して、本学独自のアスリート育成プログラムを立案する。 ・スポーツ現場で実践するコーチング計画書を発表し、そのコーチングの意義・有効性などについてディスカッションする。	ディスカッションで受けたアドバイス・意見をふまえてコーチング計画を策定し、実践する。	4時間
第4回 情報通信技術の応用例とコーチング（吉川文人） ・スポーツ競技の強化に資することを意図して開発された情報通信技術とその応用例について概観し、センサー技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	情報通信技術の開発事例や応用例の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第5回 動作分析技術の応用例とコーチング（吉川文人） ・スポーツ競技の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用例について概観し、その動作分析技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	動作分析技術の開発事例や応用例の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第6回 ゲーム&パフォーマンス分析事例とコーチング（吉川文人） ・ゲーム及びパフォーマンス分析研究について概観し、パフォーマンス指標にかかるデータの処理方法について学びを深める。コーチングにおける付加的情報の活用方法について議論する。	ゲーム及びパフォーマンス分析研究の文献調査を行ない、関心のあるスポーツ競技のパフォーマンス指標とそのデータの処理方法についてまとめる。	4時間
第7回 コーチングの評価・改善過程（吉川文人） ・コーチングの評価・改善プロセスにおいて実行される具体的なコーチング行動について、実践的な事例報告や研究論文から得られた知見を概観するとともに、コーチングの評価・改善過程に関する問題点を把握し、新たな課題・改善点を抽出する。	関心のあるスポーツ競技のコーチングの評価・改善プロセスについて自らの考えをまとめる。	4時間
第8回 スポーツの意義と価値（林弘典） これまでの授業内容をふまえながら、スポーツ庁・関連財団等の資料を基に改めてスポーツの意義と価値を学修する。	スポーツ庁が考える「スポーツ」、平成28年度体力・運動能力調査結果の分析、笹川スポーツ財団「スポーツとは何か」を熟読する。Reference Bookのpp. 71-95.を熟読する。	4時間
第9回 コーチングとは（林弘典） 日本スポーツ協会発刊の「リファレンスブック」を基に、当協会の提唱するコーチングを学修する。	日本スポーツ協会の提唱するコーチングについて調べる。Reference Bookのpp. 2-7.を熟読する。	4時間
第10回 プレーヤーズセンタードなコーチング（林弘典）	プレーヤーズセンタードについて調べる。日本スポーツ協会ホームページの【特別公開】Sport Japan第56号特集『JSP0はなぜ「プレーヤーズセンタード」を提唱するのか』を熟読する。Reference Bookのpp. 7-21.を熟読する。	4時間

	<p>コーチングの基本理念である「プレーヤーズセンタード」について理解を深め、諸種の資料を基に「プレーヤーズセンタードなコーチング」の実際を学修する。</p>		
第11回	<p>暴力・ハラスメントの根絶（林弘典）</p> <p>昨今のコーチング現場における様々な問題点・課題を概観し、特に暴力・ハラスメントの根絶方策について学修する。</p>	<p>Reference Bookのpp. 103-110. を熟読する。日本スポーツ協会ホームページのスポーツ現場におけるハラスメント防止動画を視聴する。</p>	4時間
第12回	<p>選手への言葉のかけ方（北村哲）</p> <p>・選手への動機付けについて、多くの事例を参考にしながら、言葉のかけ方の狙いや効果について整理する。</p>	<p>普段のコーチング活動における発話について記録する。</p>	4時間
第13回	<p>選手の自発性を促すコーチング（北村哲）</p> <p>・昨今目標とされる自律・自立し、主体的に行動する選手を育成するためのコーチングについて議論する。</p>	<p>昨今目標とされる自律・自立し、主体的に行動する選手を育成するためのコーチングについて議論する。</p>	4時間
第14回	<p>コーチングにおけるダブルゴールについて（北村哲）</p> <p>・昨今コーチングの目標とうたわれる、①人間性の育成および②競技能力の向上といったダブルゴールを目標としたコーチングについて議論し、指導者の立場から理想的なアスリートのキャリアについて考える。</p>	<p>ダブルゴールについて調査し、予め理解するとともに普段のコーチング活動について振り返る。</p>	4時間

授業科目名	コーチング演習				
担当教員名	渋谷・吉川・林・北村				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	以下の実践経験から年齢、性別、競技種目、技能レベルに関わらず多様な学生にに対応している。 林 弘典（第4～7回）：日本スポーツ協会コーチデベロッパー 北村 哲（第8～11回）：日本スポーツ協会コーチデベロッパー 渋谷俊浩（第12～14回）：日本スポーツ協会コーチデベロッパー、日本スポーツ協会コーチ4				

授業概要

我国の国際競技力を向上させるためには、競技の普及、アスリートの強化・育成はもとより、優れたコーチの養成が急務である。本授業では、コーチングに関連する課題や問題を概観するとともに、それらに関する研究の内容や方法を理解することに加え、アスリート個々および競技の特性を踏まえたコーチングとその実践例についても理解を深める。また、各自の課題を設定し、コーチング計画を立案できるようになる。さらに、コーチングのプロセス（実践⇒改善点抽出⇒修正⇒実践）を経て、自身のスキルを向上させることができる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	コーチングの応用・発展的理論の理解	各教員のコーチングを理解しそれらの根拠となる多様なコーチング理論を習得する。
2. DP3. 思考・判断・表現	コーチングの実践力の養成	各教員のコーチングを理解したうえで、自身のコーチングをスポーツ現場で実践する。
3. DP4. 学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性）	実際のスポーツ現場でのコーチングの実践	実際のスポーツ現場で自身が実践したコーチングを省察し、さらにブラッシュアップする。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)
「遠隔可能(要相談)」

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

4つのセクションそれぞれの課題に、積極的に取り組んでください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題①レポート・プレゼンテーション等	：	第1回から第3回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート等）について5段階で評価する。	20 %
課題②レポート・プレゼンテーション等	：	第4回から第7回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート等）について5段階で評価する。	30 %
課題③レポート・プレゼンテーション等	：	第8回から第11回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート等）について5段階で評価する。	30 %
課題④レポート・プレゼンテーション等	：	第12回から第14回担当教員の授業内容の理解度に関する課題（レポート等）について5段階で評価する。	20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1. 身体活動科学における研究方法：ジェリー・トーマス、ジャック・ネルソン、田中喜代次・西嶋尚彦監訳（NAP Limited）
2. 健康・スポーツ科学のための研究方法：出村慎一（杏林書院）
3. 研究のテーマまたは専門種目などに応じて、その都度紹介する。（各競技団体テクニカルレポート等）
4. Reference Book（日本スポーツ協会、2021年）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。
コーチングの理論は実践してこそ意味のあるものである。各セクションで学修した理論を自分の心身をもって理解し、スポーツ現場での実践を試みる。参考：向上のプロセス「知る」⇒「わかる」⇒「できる」

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる自らの時間
第1回 コーチング学研究の概観（吉川文人） ・授業の進め方について把握する。 ・一般的なコーチングの役割や行動を踏まえ、スポーツ科学の細分野のなかでも、特にコーチング学と関連の深い学問体系について概観する。 ・コーチング学の研究動向を概観し、コーチングにおける課題や問題点について議論する。 ・コーチング特論において取り上げられた諸種の知見を活用しながら、アスリートの競技力向上に資する研究とは何かを議論する。	コーチングに関連する概念をテーマとしてマインドマップを作成する。	4時間
第2回 コーチング事例研究の概観（吉川文人） ・コーチングに関連した研究活動事例について概観し、その中で取り扱われている問題点や課題について議論する。	関心のあるスポーツ競技におけるコーチングの事例研究について文献調査を行ない、自らの考えをまとめる。	4時間
第3回 ビッグデータのコーチング応用（吉川文人） ・ビッグデータを取り扱う情報通信技術や情報処理技術を概観し、コーチング及びコーチング学の展望について議論する。	ビッグデータを活用できることを前提としたコーチングの将来像について自らの考えをまとめる。	4時間
第4回 コーチに求められる役割・知識・スキル（林弘典） コーチに求められる役割、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識を学修する。	コーチに求められる役割、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識について調べる。Reference Bookのpp. 22-32.を熟読する。また、日本スポーツ協会ホームページの日本スポーツ協会公認スポーツ指導者概要を熟読する。	4時間
第5回 対他者力①（林弘典） コミュニケーションスキル・観察と傾聴、問いかかけのスキル、4つのアプローチを学修する。	コミュニケーションスキル・観察と傾聴、問いかかけのスキル、4つのアプローチについて調べる。Reference Bookのpp. 33-39.を熟読する。	4時間
第6回 対他者力②（林弘典） リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル、その他の対他者スキルを学修する。	リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル、その他の対他者スキルについて調べる。Reference Bookのpp. 39-55.を熟読する。	4時間
第7回 対自己力（林弘典） コーチの学び、コーチのセルフマネジメント、さまざまな思考法や伝達法を学修する。	コーチの学び、コーチのセルフマネジメント、さまざまな思考法や伝達法について調べる。Reference Bookのpp. 56-70.を熟読する。	4時間
第8回 個人競技種目のコーチング トップコーチのコーチング事例について①（北村 哲） ・個人競技種目（アマチュア、オリンピックスポーツ）のトップコーチのコーチング事例を題材に、コーチングのエッセンスについてディスカッションすることで、コーチングにおける実践的知見を学ぶ。	日々のコーチング活動について記録および省察する。	4時間
第9回 個人競技種目のコーチング トップコーチのコーチング事例について②（北村 哲） ・個人競技種目（プロスポーツ）のトップコーチのコーチング事例を題材に、コーチングのエッセンスについてディスカッションすることで、コーチングにおける実践的知見を学ぶ。	日々のコーチング活動について授業内容と比較しながら省察する。	4時間
第10回 コーチング活動の省察①（北村 哲） ・日々のコーチング活動の記録を元に、自身のコーチングについて省察する。また、第9回、10回の講義内容を踏まえながら各受講生のコーチング行動の良い点、現在抱えている難しさ等についてディスカッションを行う。その中で自身の指導の改善点等を見出し、実践的スキルの向上を図る。	これまでの授業内容を活用し、日々のコーチング活動について記録の仕方について工夫し、省察する。	4時間
第11回 コーチング活動の省察②（北村 哲）	日々のコーチング活動について理想的な記録の仕方および省察の仕方を実践する。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・第11回の講義で得られた知見を実践した結果について、ディスカッションを行う。省察およびディスカッションのようなコーチング活動の評価が自身のコーチング行動にどのような変容を及ぼすかを議論することで、PDCAサイクルの実践やコーチング行動の省察の重要性に学ぶ。 		
第12回	コーチング計画の立案 (渋谷俊浩) <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングに関する各自の課題についての研究成果を取りまとめ、自身のコーチング計画を検討・立案する。On the job trainingを通して、実践力を培う。 	計画に沿ってコーチングを実践し、コーチング日誌を作成する。	4時間
第13回	コーチングの実践 (渋谷俊浩) <ul style="list-style-type: none"> ・各自のコーチングについて、修正・改善を含めてさらに検討を加え、より適切なコーチングに取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。 	計画に沿ってコーチングを実践し、コーチング日誌を作成し、発表の準備をする。	4時間
第14回	まとめ：自身のコーチングの振り返り (渋谷俊浩) <ul style="list-style-type: none"> ・各自のコーチングの実践結果をまとめ、コーチングの実践について理解した内容を発表する。 ・レポートや根拠資料等に基づき、今回実践したコーチングを評価する。また、第1学年で学習した内容をふまえ、次年度の修士論文（あるいは課題研究）についてのビジョンを持つ。 ・アスリートの競技力向上に寄与する優れたコーチングについてディスカッションする。 	教員や他者からのアドバイス・意見をふまえ、自身のコーチングポリシーを確立する。	4時間

授業科目名	スポーツ栄養特論				
担当教員名	武田 哲子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ選手の寮、病院において栄養士として3年間の実務経験がある。献立作成、栄養指導、給食管理を行った経験から第8～11回の授業においてアスリートの食事計画立案について経験をもとに指導する。				

授業概要

スポーツに関する栄養学・生化学・生理学およびコーチングの知識を基に、コンディショニングに不可欠な食事および栄養面からのアプローチの理論と実践について修得することを目的とする。本特論では、国内・国外の最新のスポーツ栄養に関する文献を用い、専門知識および研究方法を学ぶ。さらに、栄養サポートを実践するためのスキルとして食事調査や体格評価、栄養教育方法を学び、スポーツ現場での実践のための課題を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	国内・国外の最新のスポーツ栄養に関する文献抄読およびディスカッション	スポーツ栄養に関する最新知見を意欲的に探索し、活発なディスカッションができる
2. DP2. 知識・技能	文献をもとにしたスポーツ栄養の分野における調査方法、実験方法の紹介	スポーツ栄養に関する研究で用いられる実験手法、測定項目、評価方法について理解し、説明ができる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)
 - ・ICT (Power point、Word、Excel)
 - ・栄養価計算ソフト

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
食事計画	： 第7～11回目の食事計画立案と実践において課題の理解度、適切な情報処理について評価する
40 %	
プレゼンテーション	： 第5回および14回目のプレゼンテーションにおいて論理的な説明、分かりやすさについて評価する
40 %	
ディスカッション	： 第6回および14回目において栄養学的観点から資料とプレゼンテーション内容を理解し、論理的な思考に基づいて独自の考察を含んだ発言ができるかについて評価する
20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかか る目安の時間
第1回 スポーツ栄養に関する研究についての概説 最近の研究成果について紹介しながら学習課題や到達目標を提示し、この授業での達成目標を確認する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第2回 アスリートにおける栄養問題の探索 各専門競技における最近の栄養学的問題についての知見を探索する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第3回 アスリートにおける栄養問題に関する知見の理解 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を理解する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第4回 アスリートにおける栄養問題に関する知見のプレゼンテーション準備 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題をわかりやすくプレゼンテーションするための準備を行う。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第5回 アスリートにおける栄養問題に関する知見の紹介 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を明確にし発表する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第6回 アスリートにおける栄養問題に関する知見についてのディスカッション 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題についての発表を聴き、お互いの意見を発表しながら理解を深める。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第7回 アスリートとしての食事計画 各自問題視したテーマに関する食事計画を立案する。	テーマに関する予習をしておく。	4時間
第8回 アスリートとしての食事管理 食事計画を評価する方法（栄養価計算）について解説する。	栄養価計算についての知識を復習する。	4時間
第9回 アスリートとしての食事の評価 栄養価計算を実践する。	各自立案した食事計画について再評価する。	4時間
第10回 アスリートとしての食事管理の実践 立案した食事計画を実践（調理実習）する。	調理実習のための予習をしておく。	4時間
第11回 アスリートとしての食事管理の実践の振り返り 立案した食事計画および実践した献立を振り返り全体的な評価を行う。	調理実習のための予習をしておく。	4時間
第12回 アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読 アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学ぶ。	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。	4時間
第13回 アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読とプレゼンテーション資料作り アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学び、発表するための資料を作成する。	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。	4時間
第14回 アスリートにおける栄養問題に関する論文のプレゼンテーションおよびディスカッション アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法・課題について整理し発表、意見交換を行い考察を深める。	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。	4時間

授業科目名	スポーツ栄養演習				
担当教員名	武田 哲子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

修士論文の作成に必要な仮説の設定のための論理的思考をトレーニングするために、スポーツ現場における栄養に関する課題の設定を行い、文献調査およびディスカッションを通して研究計画を立て遂行する力を身につけることを目的とする。

到達目標

- ・課題を論理的に整理し、仮説設定することができる。
- ・研究遂行に必要な生化学、生理学実験による評価法を理解する。
- ・スポーツ栄養学研究に用いる研究手法を習得する。
- ・自ら仮説を立て、修士論文のための予備的研究に発展する研究計画を作成し、実践する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP3. 思考・判断・表現	スポーツ栄養に関する研究を遂行するための研究手法の探索と実践	情報の理解・伝達がスムーズにできる。それらを活用し、自身の研究に必要な研究手法を探索、身に付ける
2. DP2. 知識・技能	文献調査およびそのプレゼンテーション	必要な情報を認識し、その文献を適切に抽出、抄読ができる。さらにわかりやすいプレゼン資料を作成できる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)
 - ・ICT (Word、Excel、Power point)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

課題の取り組み状況

50 %

文献紹介

50 %

評価の基準

： 課題の理解、適切な情報処理および文献検索ができていないかを評価する。

： 適切に資料が選択され、論理的な説明、分かりやすいプレゼンができていないかについて評価する(合計6回)。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツ栄養の研究および実践についての概説 本授業の到達目標を理解し、課題を設定する。	スポーツ栄養の現状について知見を調査しておく。	4時間
第2回 課題の整理 スポーツ現場における栄養に関する課題の整理を行い、本授業で扱うテーマを設定する。	アスリートの身体組成に関して知見を調査しておく。	4時間
第3回 アスリートの身体組成に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	アスリートの身体組成に関する文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第4回 アスリートの身体組成に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	糖代謝に関する知見を調査しておく。	4時間
第5回 糖代謝に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	糖代謝に関する文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第6回 糖代謝に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	脂質代謝に関する知見を調査しておく。	4時間
第7回 脂質代謝に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	脂質代謝に関する文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第8回 脂質代謝に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	アスリートのコンディショニングに関する知見を調査しておく。	4時間
第9回 アスリートのコンディショニングに関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	アスリートのコンディショニングに関する文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第10回 アスリートのコンディショニングに関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	スポーツサプリメントに関する知見を調査しておく。	4時間
第11回 スポーツサプリメントに関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	スポーツサプリメントに関する文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第12回 スポーツサプリメントに関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	アスリートの栄養教育に関する知見を調査しておく。	4時間
第13回 アスリートの栄養教育に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	アスリートの栄養教育に関する文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第14回 アスリートの栄養教育に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	発表されたテーマについて復習する。	4時間

授業科目名	スポーツバイオメカニクス特論				
担当教員名	高橋 佳三				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スポーツバイオメカニクスの基礎を学ぶ。スポーツバイオメカニクスの学習に必要な力学や数学の基礎を学び、その基礎を元に並進運動および回転運動のキネマティクスとキネティクス、仕事、エネルギー、パワーなどについて学習する。

【到達目標】

1. スポーツバイオメカニクスの学習に必要な力学と数学の基礎を理解する。
2. 並進運動のキネマティクス、キネティクスについて理解する。
3. 回転運動のキネマティクス、キネティクスについて理解する。
4. 仕事、エネルギー、パワーについて理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	スポーツバイオメカニクスに関する知識	スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設の振る舞いをバイオメカニクスの視点から分析できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	バイオメカニクスの原則に則った運動の実践または指導	授業内で学んだバイオメカニクスの原則を、実際のスポーツフィールドで実践または指導できる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
 - ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
 - ・ その他(以下に概要を記述)
- ICT (Word、Excel、PowerPoint、MATLAB、FrameDiasなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への参加度	： 毎回の授業に対しての予習、復習、議論への参加度について評価する。
30 %	
内容の理解度	： ディスカッションの内容や單元ごと的小テストの成績から、それぞれの單元についての理解度を評価する。
70 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮西智久、藤井範久、岡田英孝	・ 初めて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス	・ 化学同人	・ 2016 年
宮西智久	・ スポーツバイオメカニクス 完全準拠ワークブック	・ 化学同人	・ 2020 年

参考文献等

The Biomechanics of Sports Techniques, 4th edition (James G. Hay, Prentice Hall)
 スポーツバイオメカニクス20講 (阿江通良、藤井範久)
 スポーツバイオメカニクス (深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツバイオメカニクス序説 バイオメカニクスとはどのような学問か、どのように派生してきたか、どのような目的をもつ学問か、概略を理解する。	教科書p.1-16を読み、バイオメカニクスの概略について復習する。合わせて、教科書p.18-26を読み、力学と数学の基礎について予習する。	4時間
第2回 力学と数学の基礎1：力学の基礎、ベクトル演算 力学の基礎と、ベクトル演算のうちの加算・減算について理解する。	力学と数学の基礎について復習する。合わせて、教科書p.27-40を読み、ベクトル演算と微分・積分について予習する。	4時間
第3回 力学と数学の基礎2：ベクトル演算と微分・積分 ベクトル演算のうち、ベクトルの積、三角関数、行列演算、微分と積分について理解する。	ベクトルの積、三角関数、行列演算、微分と積分について復習する。合わせて、教科書p.42-53を読み、並進運動の位置、速度、加速度について予習する。	4時間
第4回 並進運動のキネマティクス1：位置、速度、加速度 並進運動のキネマティクスのうち、位置、速度、加速度について理解する。	並進運動のキネマティクスのうち、位置、速度、加速度について復習する。合わせて、教科書p.54-61を読み、力、等速度・等加速度運動、放物運動などについて予習する。	4時間
第5回 並進運動のキネマティクス2：力、等速度・等加速度運動、放物運動 並進運動のキネマティクスのうち、力、等速度・等加速度運動、放物運動について理解する。	並進運動のキネマティクスのうち、力、等速度・等加速度運動、放物運動について復習する。合わせて、教科書p.64-73を読み、回転運動のうち角度、角速度、角加速度などについて予習する。	4時間
第6回 回転運動のキネマティクス1：角度、角速度、角加速度 回転運動のキネマティクスのうち、角度、角速度について理解する。	回転運動のキネマティクスのうち、角度、角速度、角加速度について復習する。合わせて、教科書p.74-84を読み、回転運動のうちモーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動などについて予習する。	4時間
第7回 回転運動のキネマティクス2：モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動 回転運動のキネマティクスのうち、モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動について理解する。	回転運動のキネマティクスのうち、モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動について復習する。合わせて、教科書p.86-100を読み、力、運動の三法則、いろいろな力などについて予習する。	4時間
第8回 並進運動のキネティクス1：力、運動の三法則、いろいろな力 並進運動のキネティクスのうち、力、運動の三法則、いろいろな力について理解する。	並進運動のキネティクスのうち、力、運動の三法則、いろいろな力について復習する。合わせて、教科書p.101-116を読み、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式などについて予習する。	4時間
第9回 並進運動のキネティクス2：運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式 並進運動のキネティクスのうち、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式について理解する。	並進運動のキネティクスのうち、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式について復習する。合わせて、教科書p.118-133を読み、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心などについて予習する。	4時間
第10回 回転運動のキネティクス1：力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心 回転運動のキネティクスのうち、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心について理解する。	回転運動のキネティクスのうち、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心について復習する。合わせて、教科書p.134-152を読み、回転運動における慣性量、運動の三法則などについて予習する。	4時間
第11回 回転運動のキネティクス2：慣性量、運動の三法則 回転運動のキネティクスのうち、慣性量、運動の三法則について理解する。	回転運動における慣性量、運動の三法則について復習する。合わせて、教科書p.154-168を読み、仕事、力学的エネルギーなどについて予習する。	4時間
第12回 仕事、エネルギー、パワー1：仕事、力学的エネルギー	仕事、力学的エネルギーについて復習する。合わせて、教科書p.169-178を読み、パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換などについて予習する。	4時間

	仕事、力学的エネルギーについて理解する。		
第13回	仕事、エネルギー、パワー2：パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換	パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換について復習する。合わせて、教科書p. 180-188を読み、流体力について予習する。	4時間
	パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換について理解する。		
第14回	流体力	流体力について復習する。合わせて、教科書p. 190-209を読み、筋収縮の力学について予習する。	4時間
	流体力について理解する。		

授業科目名	スポーツバイオメカニクス演習				
担当教員名	高橋 佳三				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツバイオメカニクスの研究に欠かせないのは、様々な分析を可能にする研究機材である。高速度VTRカメラ、筋電図計、地面反力計などを用いたデータの収集方法について講義を行い、さらに得られたデータを分析するためのプログラミングの方法を習得する。

【到達目標】

一人で実験からデータ分析までを行うための素養を身につける。また、最新の知見を得るために国内・海外の論文を読む論文読解力を身につけ、情報の収集から発信まで、研究者として必要とされる素養を養う。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP2. 知識・技能
2. DP1. スポーツに対する関心・意欲

スポーツバイオメカニクスに関する実験手法
実験計画、実験、データ分析

目標：

スポーツバイオメカニクスの分析に不可欠な実験機材の取り扱いができる。
実験計画を立て、実験を行い、データ分析ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

ICT (Word, Excel, PowerPoint, MATLAB, FrameDiasなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加度

40 %

理解度

60 %

評価の基準

： 実験やデータ分析などへの参加度を評価する。

： 研究計画書、実験内容、データ分析などを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

初めて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス (宮西智久 編、藤井範久 著、岡田英孝 著、化学同人、2016)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回 バイオメカニクス的研究の手順 バイオメカニクス研究に使用される機材や研究方法などについて概説する。	次週の映像撮影に向け、必要機材の準備を行う。また実験試技を考え、それに関する研究論文を検索し、まとめておく。	4時間
第2回 実験方法 (1) 2次元画像撮影、地面反力の計測 2次元画像分析のための映像撮影法を習得する（パンニング撮影含む）。地面反力の計測方法を習得する。	撮影した映像をデジタルの作業が行えるように変換しておく。次週の3次元撮影で撮影する実験試技を考え、その撮影法を計画しておく。	4時間
第3回 実験方法 (2) 3次元画像撮影、筋電図の計測 3次元画像分析のための映像撮影法を習得する。筋電図の計測方法を習得する。	撮影した映像をデジタルの作業が行えるように変換しておく。	4時間
第4回 データ分析 (1) デジタイズ 2次元および3次元のデジタイズの方法を習得する。	次週までに2次元画像のデジタイズを終えておく。	4時間
第5回 データ分析 (2) 2次元実長換算 2次元実長換算の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	実長換算の計算方法を復習する。翌週までに3次元のデジタイズを終えておく。	4時間
第6回 データ分析 (3) DLT法 DLT法の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	DLTの計算方法について復習する。翌週の平滑化に備え、参考書などを読む。	4時間
第7回 データ分析 (4) 平滑化 平滑化の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	平滑化の内容について復習する。翌週までに全てのデータの平滑化を終えておく。高校数学やバイオメカニクスの参考書を読み、微分法について予習しておく。	4時間
第8回 データ分析 (5) 速度算出 速度算出の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	全てのデータの速度を算出する。高校数学やバイオメカニクスの参考書を読み、三角関数について予習しておく。	4時間
第9回 データ分析 (6) 角度・角速度算出 角度算出の方法を習得し、プログラム内容を確認する。特に2次元と3次元の角度の違いについて認識する。	角度の算出方法について復習する。地面反力を計測した論文を検索し、内容をまとめておく。	4時間
第10回 データ分析 (7) 地面反力の処理 地面反力データの処理方法を習得し、プログラム内容を確認する。	地面反力について復習する。筋電図を計測した論文を検索し、内容をまとめておく。	4時間
第11回 データ分析 (8) 筋電図の処理 筋電図データの処理方法を習得し、プログラム内容を確認する。	筋電図の内容について復習する。これまで算出したデータをまとめ、項目毎にまとめておく。	4時間
第12回 考察 (1) 統計処理 算出したデータをまとめ、比較し、統計処理などを行う。特にt検定、分散分析、相関係数などの基礎統計量について理解する。	様々な観点から算出したデータを並べ替えて考察しておく。	4時間
第13回 考察 (2) 考察の進め方 統計処理を行った結果から、考察を行い、論文のフォーマットに準じて文章かできるようにする。	考察を論文のフォーマットに準じて文章化する。	4時間
第14回 プレゼンテーション プレゼンテーションのための資料作成法や注意点等を習得する。 プレゼンテーションを行い、受講生同士でディスカッションを行う。	PowerPointを用いてプレゼンテーションを作成し、翌週の発表の準備をする。発表とディスカッションの内容から論文を修正し、提出する。	4時間